平成２８年度高松市芸術士派遣事業活動報告

きょう なにするん

目次

P.04 御挨拶
P.07 高松市芸術士派遣事業とは
P.08 芸術士プロフィール
P.10 瀬戸内保育所
P.11 扇町保育所
P.12 宮脇保育所
P.13 福岡保育所
P.14 鶴尾保育所
P.15 古高松保育所
P.16 屋島保育所
P.17 林保育所
P.18 浅野保育所
P.19 牟礼保育所
P.20 田井保育所
P.21 高松保育園
P.22 敬愛保育園
P.23 西春日保育所
P.24 こぶし中央保育園
P.25 西光寺保育所
P.26 川添保育園
P.27 カナン保育園
P.28 高松南保育園
P.29 和光保育園
P.30 若葉保育園
P.31 今里保育所
P.32 みのり保育園
P.33 城東保育園
P.34 れんげ保育園
P.35 さくら伏石保育園
P.36 初音保育所
P.37 サンシャインこどもの森
P.38 前田幼稚園
P.39 林幼稚園
P.40 一宮幼稚園
P.41 多肥幼稚園
P.42 川岡幼稚園
P.43 弦打幼稚園
P.44 鬼無幼稚園
P.45 檀浦幼稚園
P.46 田井幼稚園
P.47 大町幼稚園
P.48 川東幼稚園
P.49 国分寺北部幼稚園
P.50 先生に聞きました！芸術士活動ってどんなもの？
P.54 平成２８年度参加施設・参加芸術士
P.55 これまでの活動

御挨拶

本市が実施する芸術士派遣事業は、平成２１年１１月にスタートしてから、本年で８年目を迎え、保護者の皆様の御理解の下、今年度もこうして市民の皆様に、保育所、こども園、幼稚園での子どもたちの創作活動の内容を報告できますことを、大変喜ばしく存じます。

市内４０か所で展開するこの事業は、様々な芸術分野（絵画、造形、音楽など）に高い知識を有するアーティストを「芸術士」として保育所・こども園・幼稚園に派遣し、日々の保育の中で子どもたちと様々な表現活動を行うものです。芸術士と保育士・幼稚園教諭等との連携から生み出される新しい世界で、子どもたちは、芸術に触れる喜びや創作活動の楽しさをより実感しているものと存じます。

本市におきましては、「高松市創造都市推進ビジョン」の中で、「クリエイティブ・チルドレン・プロジェクト」と題し、次世代を担う子どもたちの創造力を育むことに積極的に取り組むこととしておりまして、「芸術士派遣事業」は、その核となる重要なものと位置付けております。

「活力にあふれ　創造性豊かな　瀬戸の都・高松」を目指す本市におきまして、様々なアーティストが、それぞれの専門分野を生かして子どもたちに芸術に触れる機会を提供し、共に創作活動に励むことは、大変意義深く、感性や創造力豊かな人材育成につながるものと期待しております。

この報告書で、子どもたちが自由に表現する様子や、活動の中で生み出された、世界でたった一つのここにしかない作品を御覧いただき、今後とも、この取組をあたたかく見守っていただきますよう、よろしくお願いいたします。

平成２８年１２月

高松市長　　大西　秀人

芸術士活動報告に寄せて

平成２５年に、高松市が創造都市推進ビジョンを策定し、現在、ようやくその具体的な成果が散見されるに至っていますが、その４年も前から、この芸術士派遣事業をNPO法人アーキペラゴは高松市に提案し、事業委託を受けていることを見ても、その先見の明に感嘆せざるを得ません。この取り組みは、創造都市推進ビジョンに掲げられている、創造的人材の集積という視点で、芸術士という創造的人材が活躍できる仕事づくりが１点目の目標。そこ（創造都市）で育つ子どもたちに対する将来への投資という視点が、２点目の目標だと聞いています。イタリアのレッジョエミリア地方の幼児に対するアート教育を先進事例として参照したという経緯もあるようですが、そこからは、個性の尊重こそが、荒廃した人の心の復興になるという原点をくみ取っています。

先般、教育の専門家と話をするなかで、同様のキーワードが聞かれました。「個性の尊重」と「自尊感情」という言葉です。教育は大きく変わろうとしています。平成２０年度に文科省が示した改訂指導要領のなかには、「知識・技能の『活用』を通して、課題解決に必要な思考力、判断力、表現力を養う」という趣旨が謳われています。できることを増やしていくということを超えて、それらをどう「活用」するのかということが問われています。それは、正解のない問題を、多様な価値観を持つ他者とともに話し合い、一つの方向性を見出していくという、これからの時代を生き抜くために必要な資質であるに違いありません。

思考することはもちろん、自分の判断のたしかさを確信したり、それを絵や文章または身体などで表現したりするには、根底に「自分が自分であることを認められる」という感覚が必要です。自尊感情につながるものです。正解探しの教育ではなく、知識・技能を活用した課題設定にはじまり、それに対する多様な視点と、それらを他者に伝える技術が求められています。わたしはコピーライターですが、企業からのオーダーは常に唯一解はなく、正解のない問いかけに、思考力・判断力・表現力で応えていく日常です。学校から外に出ると、正解探しでは生きていけない時代です。

自らの思考力、判断力、表現力を放棄し、誰かが作った正解を待ち望むという姿勢は、指示待ち人間を意味し、それではこの先の日本はない、という認識は、もはや多くの人が共感するところではないかと思われます。子どもの個性を重視する芸術士のあり方は、思考力、判断力、表現力のベースとなる自尊感情を育み、たしかな未来への投資になっているものと感じずにはいられません。ますますの発展を祈願しています。

高松市創造都市推進懇談会（Ｕ４０）

1期２期　会長　　人見 訓嘉

高松市芸術士派遣事業とは

様々な芸術分野に高い知識を有する「芸術士」が、保育所・こども園・幼稚園で生活を共にしながら、子どもたちの興味や芸術表現をサポートするアートな保育が、平成２１年秋より始まっています。市内４０施設の保育所・こども園・幼稚園（平成２８年度）で展開するこの事業は、自治体が独自に取り組む保育支援の事例としては初めての試みです。

多くの子どもたちが共に過ごす保育所・こども園・幼稚園を舞台に、彼らの感性と創造力の芽を見つめ育む環境を整備すべく、アートを通じた活動経験を有する「芸術士」が週1日ペースで各施設に派遣され、単発のワークショップや発表会に向けた制作ではなく、年間を通して保育に参加し、子どもの日常をアートの目線から“見守る”という関わり方をします。

各施設で展開される芸術士活動は、あらかじめゴールが設定されているという訳ではありません。定式化されず、子ども・芸術士・保育士・幼稚園教諭等が共に素材やテーマから学び・発見し、どこに行き着くかを知らない開放性は、時に私たちに困難さを与えます。「この事業は、どこにねらいがあるのですか？」と必ず聞かれますが、この不確かな状態が、活動を一層面白いものにし、何より私たちの想定を超える出来事の数々がそれを裏付けています。

本事業は、結果ではなく、過程を大切にします。活動の中で、子どもたちが思い思いに感じ表現するとき、子どもは独自の心を持っていることが分かります。その一人ひとりの行為や言葉はドキュメントとなり、芸術士と子どもたちが一緒に答えを探した経過として記録されます。

芸術士は、普段の保育の中では見たことのないもの、したことのない体験、考えたことのないこととの出会いを提供し、子どもたちの可能性を狭めることなく、彼らの自由な発想と創造力を最大限に引き出す環境をつくります。また、アートに正解がないように、ある問いについて返ってくる彼らの答えはひとつとして同じものはありません。子どもたちの自由な発想を芸術士が見守り・支え、その表現したことを褒め・認めることもまた、大切な環境の要素のひとつです。

芸術士は、感性と創造性の可能性を実体験として理解しているアートに通じた人であり、子どもと大人の境界を越えて共に交わるコミュニケーション能力が求められます。そして、これまでの実践の中から、次の４つのミッションが言葉となり共有されています。

［子どもたちと社会を繋ぐ］活動ドキュメントの制作。

［結果を求めない］過程を重視。

［子どもたちのサポーター］自ら考え、工夫し、伝える力を引き出す。

［子どもたちの“こころ”と“ちから”を大切にする］探求心、想像力、創造力を引き出す。

毎年の活動報告展の開催・冊子の発行のほか、瀬戸内国際芸術祭うみあかりプロジェクトへの参加（平成２２年7月）、高松琴平電気鉄道とのタイアップ・スタンプラリー企画（平成２３年7月）、高松丸亀町商店街自転車おしてくれてありがとうプロジェクト（平成２６年９月）など、子どもたちと地域を繋ぐ役割にも取り組んでいます。アートを媒体としたこのプロジェクトが、これから社会を担っていく未来の子どもたちを豊かに育くむ力となっていくものと考えています。

可能性の育み

芸術士®
プロフィール

太田 絵美子

専門
彫刻
芸術士在籍期間
平成２２年４月～

平川 めぐみ

専門
ファッションデザイン
芸術士在籍期間
平成２５年４月～

村井 知之

専門
パフォーマンス
芸術士在籍期間
平成21年10月～

松尾 由美

専門
洋画
芸術士在籍期間
平成２５年４月～

すぎやま あゆみ

専門
洋画
芸術士在籍期間
平成２６年４月～

谷 由貴

専門
染織・美術
芸術士在籍期間
平成21年10月～

松野 礼子

専門
絵画
芸術士在籍期間
平成２５年４月～

Frida

専門
ピアノ・うた
芸術士在籍期間
平成２６年４月～

樫本 美千子

専門
日本画
芸術士在籍期間
平成２２年１月～

カタタ チサト

専門
身体表現
芸術士在籍期間
平成２５年４月～

ルカ・ローマ

専門
彫刻
芸術士在籍期間
平成２６年４月～

長野　由美

専門
造形・
インスタレーション
芸術士在籍期間
平成２６年９月～

高松　明日香

専門
絵画
芸術士在籍期間
平成２８年４月～

マークス・ボムスキー

専門
ダンス・振付
芸術士在籍期間
平成２８年４月～

三木　優希

専門
コンテンポラリーダンス
芸術士在籍期間
平成２７年４月～

モーリエール　瞳

専門
造形・平面
芸術士在籍期間
平成２８年４月～

松尾　奏子

専門
彫刻
芸術士在籍期間
平成２８年４月～

佐々木　あずさ

専門
ハンドメイド
芸術士在籍期間
平成２７年４月～

山田　茂

専門
絵画・平面
芸術士在籍期間
平成２８年４月～

松岡　美江

専門
デザイン・
インスタレーション
芸術士在籍期間
平成２８年４月～

岩佐　百合子

専門
木工芸・デザイン
芸術士在籍期間
平成２７年４月～

松家　若奈

専門
絵画・デザイン
芸術士在籍期間
平成２８年４月～

瀬戸内保育所

カタタ　チサト 芸術士

初めて会った時ある子は「カニ走りしようよ。ワニ走りより早いんだよ！」と誘ってくれた。またある子は、所庭の船から出てくる私のおどりを見た後に「船に乗りたかったの？乗ったことないんやろ。」と言い「いつでも乗っていい。」と許してくれた。

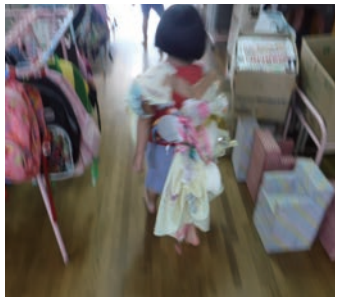
そうか！ここは彼らの世界、創造主は彼・彼女たちだ。

ゆるやかに来訪者を受け入れてくれているようで、何度目かに訪れた日にはお茶によばれた。オムライスティー、焼きそばティー、紅茶ティーに食後のティーまでついていた。

芸術士活動では、感性にふれて表現が思わず出てくるようなきっかけを用意していく。初めの頃は「カタタンは魔法使いなの？」と特別扱いだったが、「カタタンもやけど、みんなも魔法使いなんやで。」と彼らの出してくる仕草や表現・発見に驚き、共感し、ちょっと背中を押したりしている内に、いつしか彼らは、彼らの世界に新しい魔法～自分たちで布の重さを変えたり、虹の上を泳いだり、風になったり～を取り込んでいった。特別でなく、一緒に遊びや術を探求する人だと認識されると、自信満々で見つけたことを報告してくれたり、表現したり、没頭してからだを使ったり、トライしたり、「これこれこういう事がしたーい！遊びたい！」などリクエストもするようになった。

芸術士コラボレーションで、音楽のフリーダさんが来た日には、聞こえる音色に反応し、新しいステップを見せたり、種から花・砂・だんご虫・赤ちゃん・お腹の中、などなど感じる世界を一緒に旅した。

何てすばらしいんだろう！彼らに見えていることを聞くと、世界は輝きに満ちていることが解る。彼らの「？」が「！」になっていく、見えなかったものが見えてくる瞬間に立ち会うことは未来への波を感じる。



扇町保育所（おうぎまち）

限りない創造力

佐々木（ささき） あずさ 芸術士

扇町保育所ではあお組さん（年長組）を中心に活動を行っています。物作りが大好きでアイディアいっぱいのあお組さん。いつもそのパワーに驚かされ、私自身楽しませてもらっています。

準備をしていると「今日は何持ってきたん？」と使用する素材に興味津々。その様子から“早く制作したい！！”という気持ちとワクワクした気持ちが伝わってきます。

オリジナルの数字作りから始まり、お化け屋敷、洋服作りを進めていきました。

特に印象深かったのは、子どもたちのリクエストから始まった夕涼み会のお化け屋敷と幽霊電車。「大きな段ボールを沢山使いたい！！」との要望から段ボールを沢山使って幽霊電車にペイント。それから自分の手や足にもペイントしプチボディペイントが始まりました。目玉は紙粘土、舌は色画用紙、電車のタイヤやライトも段ボールで制作しました。

あまりの幽霊電車の迫力に驚く子もいました。

他にも、ボディペイントやカラーシャボン玉で染めた布を使い洋服作りにチャレンジしました。各班で洋服のテーマとモデルの子を決め、制作を進めていきました。「妖精」や「獅子」などテーマを決めてから、作業に取り掛かる子どもたち。お友だちと一緒に話し合いながら材料を選び、洋服作りだけではなく、紙皿と紙皿を合わせて鞄を作ったり、毛糸やリボンを使って指輪やネックレスを作ったりとアイディアいっぱいのトータルコーディネートの完成！短時間の作業にもかかわらず、子どもたちの限りない創造力とパワー、そして作品の素晴らしさに感動します。

子どもたちの限りない創造力をこれからも大切に守りながら芸術士の活動を続けていきたいです。

宮脇保育所（みやわき）

音楽を旅する

Frida（ふりーだ） 芸術士

宮脇保育所で２年目。今年はピアノや打楽器など生の音を聴き、イメージして表現する時間を多く過ごしています。はじめは小さな動きだった子どもたちもずいぶん身体いっぱい使って動くようになりました。

そんな６月のある日。とっても楽しみにしていたプール初日が雨で中止。残念！しょんぼりを明るい気持ちにしたいところです。そこで太陽がいっぱいの国ブラジルの音楽を聴いてみることにしてみました。

地図を広げて「ブラジルってどこかな？」と探してみる。日本から指を飛行機の様に滑らせて遠いブラジルの国まで差してみると、顔をぎゅっと地図に近づけて興味津々。

流れてくる名曲「マシュケナダ」の短いフレーズは魔法のことばのようで、繰り返していくうちに何だかワクワクしてきます。その歌にリズムを合わせて踊ってみるといつになくかっこいいダンスに。楽しいね！

じゃあ、次は楽器を演奏しながら踊ってみる？

ひとりずつ、色んな形のシェイカーを手に取って音の違いを確かめます。決まったら、曲が始まるまで楽器を持ってポーズを決めて。「さあはじまるよ～～～！」

歌、演奏、踊り。同時に楽しむ子どもたち。

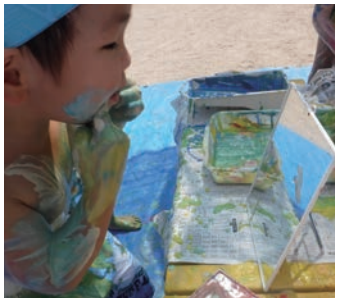
外は雨だったけれど、太陽が部屋の中にやってきた様子でした。エネルギーをまき散らしながら魔法のことばをあやつり、せいいっぱい踊る子どもたち。でも彼らは一方でしっかりと日々の移ろいを感じています。

「プールとお別れしてきたよ」

さっきまでボディペイントで真っ青になってた年長組の彼の一言。保育所で過ごす最後の夏の終わりをしっかりと受け止めて次へと行くのです。そんな子どもたちと一緒にこれから１年の集大成となる作品づくりに向かいます。それは、オリジナルの歌をつくること。

みんなと一緒に言葉をさがしてメロディを見つけに。

さあ、どんな歌になるのかな？

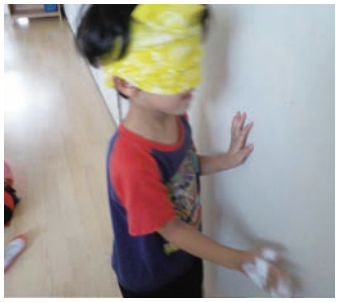


福岡保育所（ふくおか）

「宇宙って何なん？」

佐々木（ささき） あずさ 芸術士

福岡保育所での芸術士の活動も２年目に突入しました。
週１回の芸術士の活動を楽しみにしている福岡保育所の子どもたち。
去年同様、子どもたちに会うと「今日は何組さんでやるん？」や「今日は何するん？」と目をキラキラさせながら聞きに来ます。
今年度に入っての初めての芸術士の活動は「宇宙」をテーマに作品を制作しました。
家庭用プラネタリウムを使って皆で宇宙旅行に！！「あそこに宇宙人がいるよ！！」と発見したり、洋服に映し出された星を見て「うわ！！星や！！」と驚く姿がとても印象的でした。
作業を続けていると「僕にとって宇宙って（テーマが）難しいな！！」と直接伝えに来る子がいました。その言葉から「テーマが少し漠然としていたのかな？」と考えさせられました。
しかし、作品はとても生き生きした素晴らしい“宇宙”が完成しました。
そして、今年もボディペイントに挑戦。
自分の顔や身体、段ボール、ロール紙、布に豪快にペイントし、鏡を見ながら顔に絵の具を塗り込んで、皆でゾンビに大変身！！！
その他にもカラーシャボン玉をしたり、運動会に使用する旗や聖火台を制作しました。
子どもたちと話をしていると将来の夢について話すことがあります。「私大きくなったらアイドルになる！！」と将来の夢を語ったＹちゃん。数か月後「佐々木先生！！私アイドルになるのやめた！！私、芸術家になりたい！！」と話しにきました。「何で変わったん？」と聞くと「だって、芸術家は絵が上手いからなりたい！！」と自信満々に夢を語りました。
子どもたちの夢は今日も宇宙の様に無限に広がってます。



鶴尾保育所（つるお）

大家族とのかかわり

村井 知之（むーさん） 芸術士

■4/21　言葉や擬音をなぞりながら、体開き。伸縮・発声・緊張弛緩・模倣・化ける。BGMで踊る・からだははなす・からだはあそぶ。力の使い方が常時と違った様で早めにお茶休憩。その後ファンクやハウス(注1)でテンションアップ。ムビラ(注2)でじっくり舞う彼女が残る。

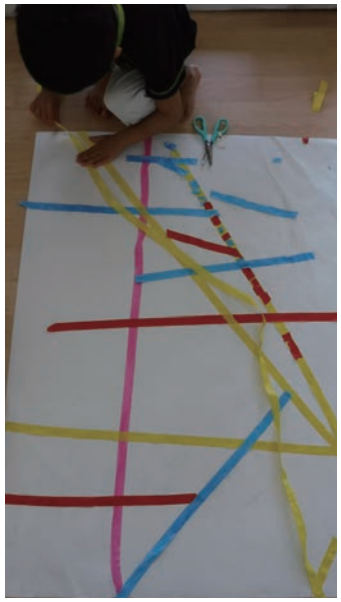
■5/13　なかなか描かないKさんの傍へ。時々ウロウロ。待ったり・提案したり。暫くしてみると、家の中の様子が浮かび上がる。キッチン、花が大きいベランダ、敷つめられた布団。イメージが飛ぶ車の色、お父さんがゲームをする様子。家が仕上がると隣に、アイス屋のような店が仕上がる。Hさんの黒の力の線はどうも道路らしい。Iさんのサッカーボールに瞬間見える…。それは彼女の自宅。Kさんは家とゲーム機が同大。

■6/2　引き続き太鼓時間。青の太鼓・ジャンベ(注3)・バングラデシュの楽器。Sさんが演出の力を発揮する。三人の輪の中で踊るMさんKさんが「(体に)音が響くなあ」と言う。彼は輪の大きさを広くすると「沢山中に入って踊れる(喜べる)人が増える。」と言って拡大。しきりはしないが、演奏プランを促しつつ叩くのに集中していく。Rさん最後にそおっと叩いてみる。

■6/13　いつも読む絵本の場面に、効果音をつけてみます。同じ楽器で違う場面に音をつける方が多数。ちょっと伝導率が低かった様なので変更。
オノマトペ(注4)で出した音に似た音色の楽器を見つけて鳴らしてみます。しばらくそんなあんばいで続き、やっぱり“とにかく音を出してみたい。”となる。

■7/8　目を閉じて、じっとしたり・動いたり・耳を澄ましたり・触れたり・声を出したり。普段意識しない感覚をとぎ澄ましてみる。床さんの声を聴いてみる。そおっと普段の部屋の各所を触れてみる…。Kさんはじーっと座っている。終わってから尋ねると「きもちよかった…」体を無心に動かしての“集中”“解放”もあればじっと内側に潜ってのそれもまたあり。

（注1）音楽のジャンル　（注2）民族楽器　（注3）太鼓　（注4）擬音語



古高松保育所（ふるたかまつ）

古高松ＦＬＡＧ！！

長野（ながの） 由美（ゆみ） 芸術士

今年はオリンピック！！の年です。
４月の打ち合わせで「秋の運動会の時にオリンピックの旗の様な古高松保育所の旗を年長組で作り、古高松オリンピックを開催したい！！」と先生の熱い思いを聞きました。
それを聞いただけでワクワクしました。
旗を作るにあたってどのように始めていこうか？？
いろいろ話しをする中、どうせやるなら本格的に・・・
旗のデザインをみんなで考える「デザインコンペをしよう」という事になりました。
さて、デザイン？　子どもたちにどう伝えよう？？
言葉で説明してもなかなか理解は難しいだろうな～。

“デザイン＝単純な線”を思い“何か子どもたちに響くもの？？線＝画家モンドリアン”を思いつき「モンドリアンさんの真似っこしてみよう！」から始めました。子どもたちの分からないなりにモンドリアンを感じて感覚で作っていくこの柔軟さに「言葉よりも体で感じろ！」なんだなぁと思いました。
線のデザイン万国旗が出来あがり、次はいよいよ旗のコンペ・・・。丸・三角・四角を組み合わせて思い思いのデザインをし、みんなで審査して一つのデザインを選び出しました。それからはみんなで旗の制作です。図案を見ながら緊張感を持って色塗りする姿がとてもかっこ良かったです。

制作途中、
「で、先生、この旗何に使うんやったっけ？？」
担任の先生と拍子抜けしたのを思い出します。
「そうだよね、分からなくなってくるよね～。」
「運動会でみんなの旗を入場の時に運んで飾るんだよ。」
そう言った瞬間、子どもたちが「すご～～～い！！」と大歓声をあげました。
分かってくれたのかどうか・・・？
運動会が楽しみです。

屋島保育所

混ぜていろいろな色を

高松 明日香 芸術士

平成２８年６月３０日（木）、今日は初めてみなさんと絵の具を使って絵を描きました。色は赤・青・黄の３色のみを使い、混色しながら描いてもらうということに挑戦しました。

最初に簡単に混色について説明してからはじめてもらうと、みなさん思い思いにトレー内の色を混ぜています。

トレーの中で少しだけ絵の具を混ぜて描いてみる子、絵の具を一気に全部混ぜて描く子と大きく二つに分かれました。

少しずつ混ぜて描く子は、描くものによってひとつひとつ色を変えて描いています。一気に混ぜた子は絵の具が濃い色になるのですが、気にすることなく好きなものを描いていました。絵の具は濃淡があるので作品の表情がとても豊かに感じられ、色味も描いている物も筆の勢いも全員違います。筆の先や腹などを使い分け、さらにはたたいてみたり、たっぷりの絵の具をつけたりと、それぞれがとても工夫しています。

混色はグラデーションを連想させるのか、虹を描いている風景にたびたび出会いました。混色によって表現された虹の色は非常に美しく、複雑な色の変化がよく作品に表れていました。大きなクワガタとカブトムシを描いている子もいて、左の長細いものは木、地面にあるのは草だそうです。遠近感を感じる色で表されていて、まるで昆虫がこちらに向かってくるような迫力がありました。

こだわりの強い子は２時間弱もずっと描き続けており、最後まで描いていた２人の女の子とは制作を通じてじっくり関わることができ、ゆっくりと制作風景を見せてもらいました。クレヨンのパッケージに描かれている色を指さしながら「この色はどうやって作るの？」と問われ、一緒に１色ずつ混色して作りました。こちらが「これは何を描いたの？」と尋ねると細かく説明してくれ、みなさんの世界を少し知ることができたように思います。

林保（はやし）育所

やさしいほんと

松尾（ぴんちゃん） 由美 芸術士

派遣されて今年でもう３年目。すみれ組（５歳児）３６人のみんなとは、ずいぶん仲よしになりました。

蝉時雨のある日。Ｇちゃん、Ｎちゃんと倒れていたセミを発見。私は「水飲ましたら元気になるかも」「ぴんちゃん セミに水や、やったらいかんので」「そんなことないやろ、知らんの？みよってん」吸い口めがけ水を３滴。ポツポツポツ落とすと足をごそごそ「おっ、動き出した！」「暑かったもんなぁ。水筒のお茶あげたらよかった！」そして、上にポンと軽く投げると手のひらを離れ、羽をばたつかせ飛んでいくのを３人で見送りました。

その次の週。Ｇちゃんみんなに責められるに遭遇。先生が間を取り持ってくれています。「水をかけたらセミさん嫌いだから大事な命まもってあげようね…セミに水はかけないように」と。部屋の片隅にいた私を見つけ、目を合わす彼らの口からは、言い訳ひとつも出てきません。「ごめんよ～」と、心の中で叫びます。深い海の色を重ねた後、庭にならんだ布を見ながら「ひらひらして、綺麗やなぁ」「お庭も喜んどるわ」「セミもバッタたちも！」暫く同じ光景をみんなと見つめていました。Ｇちゃんに「こないだ、ごめんよ」との一言をやっと告げると、ほかの皆が「なになに、どしたん？」彼は「なに？覚えとらん」、話題をそらしました。私はみんなに説明をしました。「セミに水をかけたのは私が先にしたんや…」と。返って来た言葉は「ぴんちゃんでも、助けてあげれんなぁ。夏が終わったら死ぬんやと」ポツリと一言。ひとつの命から知らない世界を研究中の子どもたち。それは残酷だけどほんとの言葉。裏表のない言葉にやさしいほんとがかくれんぼ。彼らに頼りがいがあるのは交わす言葉が深いからでしょうか？そんな彼ら彼女たちと同じ感覚を募らせ「ありがとう」に気持ちを託し、今も交流を巡らせているのです。

浅野保育所（あさの）

たっぷり、しっかり、あそびきる！

モーリエール 瞳（ひーちゃん） 芸術士

●はじめましての日。

名札をギュッと隠すAちゃん。「なぁ、Aちゃんのお名前って何かわかるん？」「Aちゃんやろ？」「なんでわかったん！？」

●土粘土あそびの日。

男の子たちが集まって大きな恐竜を作っている。「格好ええん！この恐竜、名前なんて言うん？」「ももちゃんや。」「へぇ、女の子やったんやな。」しばらくして、「ひーちゃんセンセ、見て、タマタマつけたんで！」「やけん、これ、ひーちゃんセンセな。」

同じ日、小さな人形を作ったMちゃん。常にそばに座らせて、まるで誰にも聞こえない2人だけの会話をしているよう。お別れの時間。人形をじーっと眺めてから、ポイっと置き、ぷいっと立ち去る。サヨナラの儀式に見えた。

●スーパープールの日。

泡、氷、片栗粉、いろんなプールがある。活動終盤、年長児の男の子が5、6人、水の入ったタライを囲み、お互いに堅い握手。「はい、よろしく！お願いしまーす！」「お願いします！」何やら秘密結社が始まる。「何しよったん？」「ふふ。」と内緒。後で、先生が上手に聞き出してくれると、みんなで念じて、ひーちゃんセンセが持って来たような氷を、水からつくろうとしていたらしい。

●100人のボディペインティング！

2歳組から年長組であそぶうち、次第にヘアカラーになり、万国旗のような髪色の子がわんさか！女の子たちはトリートメントでいたわる。髪からつま先まで塗り込んだSちゃんを見て、「あのこだれ？」お友だちでもわからない。

みんなの世界に少しお邪魔して、かわいいエピソードが増え続ける。先生方が子どもたちを第一とし、みんなで活動をたっぷり、しっかり、自由に楽しめるよう、温かく支えている。子どもたち、先生方、保護者の方、みんなの笑顔に囲まれて、その度、芸術士の仕事に感謝をする。

牟礼保育所

瞬き

三木 優希 芸術士

子どもたちのココロの動きは、タイミングが読めない。一人ひとり違うタイミングで動くものだから、すぐ見逃してしまう。出会えるととても嬉しい。それは星の瞬きによく似ている。

素のカラダで、自分に嘘をつかず踊りたい。そんな事を日々考えながら過ごす中で、ふと小さな子どもたちもカラダを使い分けていることに気づく。先生との会話でとっさに出てくる声、目線、カラダの向き。

好きなものを追っかけている時のカラダや口角。自分たちのカラダに起こる感情も、子どもたちは素直に表現している。それは人間の本来のコミュニケーション能力のはず。

しかし子どもでも、感情を隠す手段を知っている。大人はそれの引き出し方を実はあまり知らないのかもしれない。一つの方法として、歌や踊りはそれを分かりやすくする事がある。絵や物作りもそうかもしれない。

いろんな人の表現方法を見つけて「そうか!こういった表現もあるのか。」と、自分に無い物を見つけるヒントにもなる。そういった色々な事を共有する事、特に五感の共有は生きる上で、とても大切なことである。

子どもたちの中から出てくるもの、何も無かったところに湧いてくる新しい感覚。そういったものが見えたとき私は活動をしていて楽しい。表現という言葉に敏感になる必要はなく、大人は一人ひとりの持っている個性や感性を受け入れるべきなのだろう。時には解放しなければいけない。時には制限を作り、その中で考える事が必要かもしれない。私が踊っているときや作品を作るときに大切な事を、活動の中にヒントとして入れていく。興味を持つ物は、人それぞれ。日常のダメ!の中に潜むダイヤの原石を活動で拾い続けている。それが瞬くのはいつか分からないが、いつか輝く手助けになっていて欲しい。

保育の現場が、晴れた夜の星空のように、瞬きの繰り返しで溢れて欲しいと願って活動を続けたい。

田井保育所

ルカ・ローマ 芸術士

Luca ROMA

この保育所で２年目を迎える事が出来たのはとてもラッキーで、私自身その幸運にとても興奮しました！

田井保育所は私にとっては、ワークショップの内容が芸術寄りであっても、運動に近い遊びであっても、コミュニケーションを取りやすく、毎回出てくるアイデアを実現するのにとても適した規模でした。

毎回の子どもの成長を感じる事以上に、２年続けての担当だったという事は、去年と今年を比べるという貴重な体験となり、それは更には保育所のスタッフとより良い交流ができる助けとなりました。

今年は、あと数回を残すのみとなりましたが、“できる事ならまた更にもう１年続けられれば、よりスタッフとの信頼関係も築く事ができ、子どもたちと一緒に私自身も更に成長できるのではないか”と思っています。

E' il secondo anno che ho la fortuna di lavorare qui e ne sono entusiasta!

Tai è un piccolo asilo dove è facile pensare e realizzare i miei work shop sia che siano d'arte sia che siano di semplice gioco e comunicazione.
Vedere crescere i bambini volta dopo volta e anno dopo anno mi ha aiutato molto a capirli ancor di più ed anche a come collaborare meglio con tutto lo staff dell'asilo.

Manca ancora qualche mese alla fine di quest'anno e spero che continueremo a crescere e divertirci di più tutti insieme.

Luca

高松保育園

いきるちから

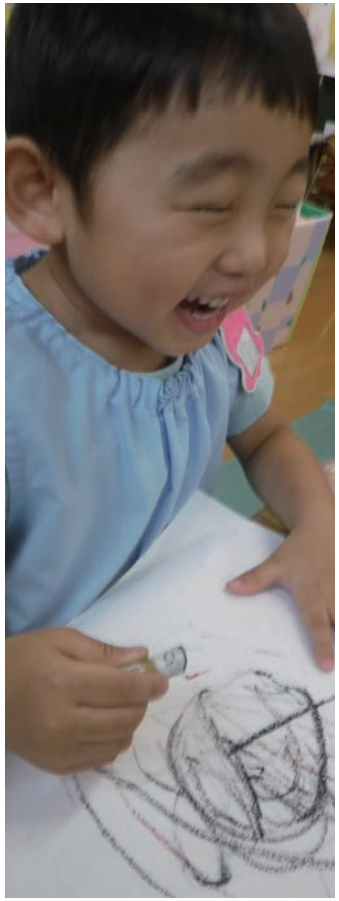
山田 茂 芸術士

昨年から週に1回程度、高松保育園にて芸術士活動を行っている。これまで画家として生きてきた私にとって、幼児教育の現場は全く未知の領域であるが、以前よりこの分野に関心を持っていた私には、絶好の学びのチャンスであり、この出会いに心より感謝したい。そしてなによりもありがたいことは、保育園も子どもたちもこのような私を快く受け入れてくれたことだった。それは偏に、先達の芸術士が彼らとの間に信頼関係を地道に築かれてきたのだと言えよう。

ところで芸術士活動では、活動の様子を写真や文字に残して、ドキュメントを制作している。ある時、ドキュメント用の写真を整理していると、普段あまりみられないようなとっても魅力的な表情をした子どもたちに気付いた。

「こんなに穏やかな表情をするんだ。」とか、「こんなに集中した顔は見たことないぞ。」とか、「こんな難しい顔をするのか。」などなど。まだ余裕の無い私は、そんな彼らのとびっきり素敵な表情をうっかり見過ごしていたのだった。それからは、なるべく彼らの表情に意識を向けて、写真にも記録した。その一部を上の写真でいくつか紹介させてもらった。

絵を描いている子どもたちを観察すると、彼らはただやみくもに絵を描いている訳ではないようだ。なぜこれを描いたのか理由を尋ねると、彼らなりの考えや理由を教えてくれる。子どもは遊びのなかで、様々なことを考え、そして多くを学びながら遊んでいるようだ。大人が思っている以上に、子どもたちは色々なものを観察し、考え、行動している。そのプロセスを見ず、結果だけを見て全てを判断してはいけない。何かを創作するということは、何も無いところから自分で考え、そして目的に向かって行動することなのだ。この先の人生において、必ずそれが“いきるちから”となりえることを信じ、私はそのきっかけの種を蒔いていきたい。



敬愛保育園

指先からうまれる言葉

樫本 美千子 芸術士

ひとつのテーブルを４～６人で使う。さくら組（２歳児）での、いつもの風景です。その中でクレヨンや３色絵具ポスターカラー、泡絵具、油性・水性マジック、手作りシールやはさみ、画用紙に和紙や段ボール、土や小麦粉粘土、のりや筆、綿棒など様々な素材道具を楽しむ時間。画用紙にクレヨンで描いた丸は、「お母さん、笑っとる。」長い、長～い１本の線が「電車乗って、お出かけした。」筆で画面いっぱい描かれたＫちゃんのダイナミックな線。「お姉ちゃんの学校行って遊んだよ。おもっちょかった。」画用紙に筆で描いた３０㎝ほどの長い横線。彼にとって小学校に向かう家族やその道筋での会話、彼に向けられたお姉ちゃんの笑顔。すべてが１本の線に表現されています。

「これ、おばけ！怖いんで～。」「ママのピンクのおうちよ。」「花火、どーんどんって、お耳痛かった～！」

子どもたちが話す日々の言葉に耳を傾け、制作遊び、感触遊びを一緒に楽しんでいます。

子どもたちは、五感を使い世界を体験し感じています。

２歳児が３歳児になるこの年齢は、言葉が少しずつ、文章として表現し始めます。大人なら記憶として蓄積していく言葉も、２歳児にとっては、この瞬間生まれて消えていく言葉。その中には、子どもたちの大切な思いが詰まっています。それは、子どもたちの作った作品も同じ。

作品に失敗という言葉はありません。

一つの丸、１本の線その中に「人間の本質的な美」を感じることができるからだと私は思います。子どもたちのまなざしは、決して過去を顧みる事はありません。いつも明日という未来に向けられています。

子どもたちの小さな世界は、実は宇宙より広くて大人が見ているのは、彼らのほんの一部分なのかもしれません。今日のおやつは柑橘類。「あっぱいよ。」とＹちゃん。味に驚いて（甘いと酸っぱい）が思わずくっつき新しい言葉ができた。さあ！記録してドキュメントしなくちゃ！！

西春日保育所（にしかすが）

あの先生、かっこいいやろ。

モーリエール 瞳（ひとみ） 芸術士

●年長組と土の絵の具づくりした日。
お迎えにきた年中組のパパが絵を見て笑う。「これは芸術士の仕業やな。」
●ルカ芸術士が以前制作した電車の遊具に年少組と一緒に絵の具とボンドでコーティングをした日。
はじめは淡い藤色に塗っていたが、色の相性が悪かったのか、乾いていくにつれだんだんと重暗く変色していった。
「先生、ごめんなさい！どんどん怖い色になりよる！」慌てて所長先生に伝えると、「どれどれ！」と現場へ直行。「わっはっは！なんや！現代アートやん！いい、いい！」笑いながら去って行った。主任の先生も「銀河鉄道みたいでかっこいいやん！」と笑い飛ばす。
数分後、起きぬけの子どもたち、黒くなった電車に集まっている。「わ、なんか黒なったな。」そこへやってきた年少児のKくん。電車を指差しノリノリで、「わぁ！めっちゃ格好ええやん！これ、ほんまの電車やん！」と言って踊り出す。「ほんまや！かっこいい！」みんなもぴょんぴょん跳ねだす。大人たちの大きな愛に包まれて、子どもたちがのびのびと育つ姿を目の当たりにする。そして私自身も、先生方に温かくしっかり見守られていることを理解した日だった。
●年長児のYくんとIちゃん。
「ひとみセンセ、それ筋肉なん？」「そうや、筋肉や。ムキムキや。」「プニプニや。」「ちゃうわ、めっちゃ硬いで。」といって腕を出すと、Yくん青ざめた顔で、「ほんまや〜！めっちゃ硬い！」と肘の骨をつかんでいる。
子どもたちとのやりとりを先生方はぷっと笑い、活動にも積極的に関わりをもつ。時には子どもたちよりも真剣に素材とあそんだり、一緒に模索したり。キメる所キメる、真剣に取り組む先生たちの姿を見て、「あの先生、格好いいやろ。」大好きな先生たちのそんな姿は子どもたちの目に、とても格好良く映っている。

こぶし中央保育園

子どもたちの思いを形にする

樫本 美千子 芸術士

朝、園児たちが登園するまでの自由遊びの時間。お絵描きや造形遊びをしています。保護者や先生方にも協力いただき、廃材で自由制作。子どもたちは、作りたい時に来て、完成すると笑顔で園庭遊びに出掛けていきます。

プラカップや牛乳パック、空き箱など素材も形も異なる、たくさんの廃材から、子どもたちは、素材を見つけ、作る方法を考え、完成に導く。素材が見つからなければ柔軟な発想で別の方法を見つける。プリンカップを見つけたKちゃん。カップ全体を油性マジックで赤く塗りつぶし、眼鏡に見立てて一言。「ねえ、世界が全部・・・赤いよ。」

何の制限もない場所。思いついた事は、とりあえず作ってみよう、やってみようが合言葉。アイスカップの「メリーゴーランド」やトマトケースを使った「トリケラトプス」

子どもたちにとって日常生活に必要なアイテム、発砲スチロールのケースで「ｉＰａｄ」。大人にとって不要なものが子どもたちの手によって、生まれ変わっていく時間。

子どもたちの発想を実現させる為に、一緒に考え、悩みお手伝いする不思議な存在である芸術士に、子どもたちはいろいろな話をします。

「小さい頃、宇宙に行ったよ。お母さんが抱っこしてくれていたから怖くなかった。」「私のお人形見せてあげる！先生には秘密だよ。」「なんでかな。朝、逆上がりできんかったのに、お昼に練習したらできたんや。たくさん人いたから緊張したん？でも、運動会は、お父さん、お母さんもきてくれるから頑張れると思う！」

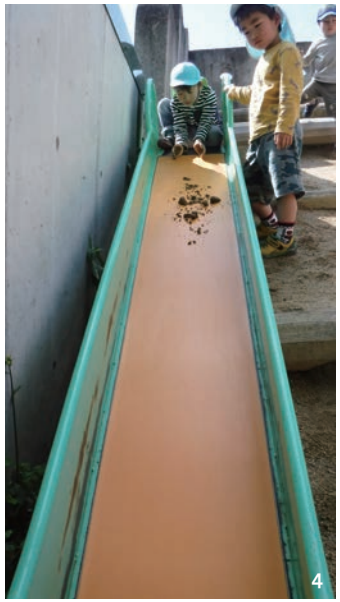
春に出会った時には、幼さが残っていた子どもたち。日々、心も体も成長し親子の愛情や秘密の共有、自己分析するなど知識も感情も豊かになっています。

この子どもたちの成長が５年後、１５年後の世界を築いていくのですね。「ぼくが１０歳になったら、東京オリンピックあるね。」と笑顔で教えてくれたＴちゃん。彼の横に、１０歳の彼がいます。子どもたちと成長し、子どもたちの思いに寄り添う、そんな芸術士でいたいと思う毎日です。

1

2

3


4

5

6

7

8

西光寺保育所

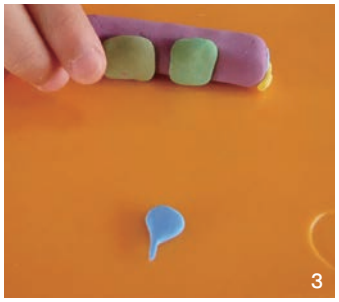
すこしずつ

松野 礼子 芸術士

西光寺保育所に行くようになって今年で３年目。
当初、年少児だった子も今年は年長児に。毎週１回の３年間、少しずつ大きくなっていく子どもたち。
言葉やできる事も増え、泣いてばかりいた子の泣き顔が減ったり。活動にあまり参加しなかった子が少しずつ参加するようになって、笑顔でボディペイントをする姿が見られたり。絵を描く時に自信が無さそうだった子が、ちょっとしたきっかけで友だちとお喋りしながらどんどんと描いていたり。そんな成長した姿もあるけれど甘えん坊な所や悪ふざけする所はしっかりと残っている。
「まっちゃん！」と言う元気な声と笑顔で迎えてくれる1日の始まり。「あした、おでかけするんで」「このむしみて～つかまえたん」「きょう、どこにはいるん？」朝、こんな話を少しして活動の準備に入る。そして活動の時間になると全身で私の説明を聞いて受け取る子どもたち。
「できた！」と言って見せて、言葉を返すと満面の笑み。すぐ飽きてしまう子もいれば、時間ギリギリまで集中している子もいる。いろんな子のいろんなものづくり。これからも一緒に少しずつ大きくなっていこう。
（写真１）「ぶよんぶよんしとる、なわとびかトランポリンみたい」
（写真２）指を見せて「ここがまるくなっとって、おふねみたい」
（写真３）土粘土の大きな塊を持ち上げる。
（写真４）「泥団子を滑り台で滑らすとどうなるの？」を試す。
（写真５）一緒にプールに入った日。「おおきくな～れ」と私に水をかけてくれる。
（写真６）母の日のプレゼントづくり。紙いっぱいの想い。
（写真７）「てんとうむし」
（写真８）鏡を見て自分の顔を描こうの日。自分の顔の中に家族の顔も。

1

2


3

4

5

6

7

8

9

10

川添保育園

日常も一緒に

松野 礼子 芸術士

年長組だけの活動を行っている川添保育園は今年で４年目。毎年、今年の年長さんはどんな感じかな…と思いながら活動が始まっていく。

これは喜ぶかな、これは楽しいかな、なにで夢中になるだろう。好きなもの、苦手なことや反応はやっぱり毎年違っていて、週1回少しずつ子どもたちを知っていく。

楽しい時は時間いっぱい全力で、つまらない時は活動に途中で飽きてしまう子もいる。

帰りの会で“にじ”を歌い終わると窓の外に本物の虹が。「にじをうたったけん、にじがでたんちゃう」「さっきよりふとくなった」「むらさきがでてきたよ」と微妙な変化もよく見てる。

活動だけじゃない、日常も一緒に共感できたら。

今年は３回行ったボディペイント。最初から積極的に塗る子が多い。机についた絵の具を洗うために水を投入すると、別の遊びが始まった。

１回目は机に開いた穴に絵の具を落とし、下に落ちた絵の具を見て「じごくみたい」。

２回目ではまた穴に絵の具を落とし「じごく、じごく、じごくをめざせ」と地獄の歌が始まった。

３回目の時は、朝から地獄をする気満々。「じごくしたいけん、またみずかけて」とリクエスト。

（写真１）「おたまじゃくし」

（写真２）地球づくり。水色の点々をいっぱい描いて「あめいっぱい」と歌いながら。

（写真３）「たまねぎのたね」

（写真４）顔に洗濯バサミの後ろでギターを弾くＳくん。

（写真５）トイレットペーパーあそび。それぞれの楽しみ方。

（写真６）「けむし」（写真７）「みえる〜」

（写真８）一緒に虹を見た日。

（写真９）「トイレットペーパーでんしゃ」

（写真１０）ボディペイント「じごくめざせ」中。

カナン保育園

生活の中から 生まれてくるもの

長野（ながの） 由美（ゆみ） 芸術士

２年目となる子どもたちとの関係・・・

私をそのまんま受け入れてくれる子どもたちは“作ること”が当たり前になって、好きになって、生活の中に取り入れるようになりました。担任の先生は、

「今、〇〇に興味あるから、この興味持った事をどうにか活動に生かせないでしょうか？」

と、子どもたちが今熱くなっていることを話します。そのやり取りがきっかけで活動が生まれる・・。

興味を持っていることだからこそ、活動もより一層楽しくなる・・・。

この良い循環が活動へと子どもたちを導いて楽しいと思える時間を作りだしているのです。

春からの活動…すみれ組さん（年長児）は、ギターに興味を持ち、ひばり組さん（年中児）は、電車ときゅうりと聞き、活動を始めました。興味があることの制作意欲の凄さ・・・“少し難しいかな～”と思うことも目的があるのでくじけずに頑張る・・・。その姿に感動する私・・・。

去年からの子どもたちの成長に感無量！！なのです。

こうして作ったものであそぶのは最高で、ギターを作ったすみれ組さんは、「すみれロックフェスティバル」を次の活動で開催しました。すみフェス当日、私が保育室に行くと、Aさん・Hさんがかけよってきて「ギターの練習してきたよ～」と言いました。

普段の遊びの中でも、自分の作ったギターを取り入れて遊んでいる様で、その場では終わらず、生活の中に溶け込んだ活動となって嬉しく思いました。

もっともっと、子どもたちの生活の中に入っていけたら、一緒に楽しいことを体感できたらと思っています。

高松南保育園

イメージの海原

松家 若奈 芸術士

「まちゅかせんせーい！」
どこからか声が聞こえて来る。
どんなに遠くにいても大きな声で呼んでくれる。
高松南保育園の子どもたちはいつも元気。
そして、芸術士活動にも積極的。
「もうしてもいい？」
はやる気持ちが抑えられないほどに。

「〇〇みたいやね」
子どもたちからよく聞こえてくることば。
色や形から連想する回路がすでに出来あがっている。
絵の具が流れて偶然にできた模様を「ツバメみたい」と言い、色と色が混ざり合ったようすを見て「遊園地みたい」と表現する。途端に子育てするツバメの姿が浮かび、ネオンが煌く遊園地に立つ自分を想像する。
記憶の引き出しがそっと開く。
どこかで見た風景や出来事が、紙の表面や筆の先からふわふわと漂う。
ことばにすると、友だちにもふわふわふわふわ伝わっていく。そうしたら、「〇〇みたいにも見えるよ」と新たな波がやってくる。
想像がどんどん押し寄せてくる。
その無限に広がっていくイメージの海原をみんな楽しそうに泳いでいる。
素敵なことだと思う。
思いもしなかった方向へ、共に泳いでいける。
ときどき、沖に出すぎて浜辺を見失う。

「〇〇みたいやね」
別世界へと旅できる不思議なことば。
子どもたちとの間のそういう瞬間を大事にしたい。

和光保育園（わこう）

ペロペロ舌が出る

松尾（まつお） 由美（ゆみ）芸術士

この園で過ごすのも３年を過ぎ４年目へと。続ける事の楽しさを今、子どもたちを通して味わっています。

平成２８年夏の日「せんせ、ぼく絵かくん大好き」、「僕も～つくるん楽しーい！」こんなうれしい言葉をプレゼントしてくれた、彼らとの出逢いは「もぅせん。飽きた」ゴロゴロゴロの連続でした。とても忙しい子どもたち。「そりゃ、やる気がなくなっても仕方ないね～」と思っていたら、気がつくと…舌がペロペロ。いつ頃からかそんな瞬間をとらえる事が多くなりました。絵の具を塗りながら[ペロペロ]ハサミを手に取り[ペロペロペロ]粘土を使いながら[ペロペロペロペロ]それだけ一生懸命で真剣なのです。ひたむきな姿に思わず声をかけてしまいます。「いい仕事をするね、大好きだよ。」

そんな子どもたちは今、個人作品を終え、秋から、廃材を使った大きな作品にトライするべく、みんなと力をあわせて下準備をしています。トライアスロンの団扇・ふわふわの綿・とよのすけくんからのプレゼント、作り上げる楽しさを頭に描きながら「できないー」「できん」「むずかしがー」「どうしようか？」を、毎回奮闘作業中です。いつもの、舌も出ています。「ほら、みてん！」「へへへへへ～」「うひゃヒャヒャヒャ」の会話とともに、“楽しい”が生まれています。失敗を重ねながらも、日に日に増す集中力と、待つ能力を伴いながら。

こんな事が日々の最中に見え隠れ。その中で、育まれている私と子どもたちがいます。願いは…“この現状が子どもたちの心の中にずっとずっと続いて欲しい”ということです。「せんせ、またこんどね…」阿吽の呼吸でつながり、目と目で合図。ずっと過ごしているからこそのひととき。どんないい作品を作ることよりも、ひとりひとりのペースを大切に考えながら、大好きな[ペロペロペロ]の子どもたちに見送られて「またねー」と、つづきを続けている私です。まだまだ諦めていない一輪車とともに。

若葉保育園

何にでもいっしょうけんめい

長野 由美 芸術士

若葉保育園に初めて来たとき、園庭から聞こえてくる子どもたちの元気な声にドキドキしながら「おはよう」と声をかけた事を思い出します。

保育園の門に入ると、だれかれ私を見つけては、かけよってきて

「ゆみせんせい、今日はどんなおもしろいことするん？」

と言いながら、私の荷物運びを手伝ってくれます。

５月から活動を始めましたが、毎回毎回思うのが“子どもたちは何にでもいっしょうけんめい！！”なことです。

夏祭りの灯りを作った時も、単純作業が続き大変だったと思うのですが「いやだ」とは一切言わず、楽しみながらチャレンジしていました。その姿を見ると、私もうれしくて次々と色んな事にチャレンジしてみたいと思っています。

また、担任の先生が状況に応じて対応してくれて、とても助かっています。

最近のことでは、絵本制作をしているときのこと・・・

午前中の活動では時間が足りなくて子どもたちも「まだ活動をやめたくない」といったとき、作業していた机をそのままにして、椅子を持ってテラスで給食を食べました。

テラスで外の景色を見ながら食べた給食は、とても美味しかったし、子どもたちは給食後すぐに絵本制作に取り掛かっていました。おやつの時間が迫り時間を切るまで。

「時間が足りない～」

と言いながら活動する子もいました。

子どもたちの集中力もすごいですが、子どものやる気を支える先生に感謝です。

こうして周りで環境を整えることで、子どもたちのやる気スイッチが入り“いっしょうけんめいになれるのだな”と思いました。

今里保育所（いまざと）

特殊用務員は続く

村井（むーさん） 知之 芸術士

■4/20　ねこ組（3歳児）はグルグルと神社を散歩。「どうして神さませんの？」とお参りしない事を先生に聞いていた。

■5/11　白い紙に白い鉛筆で描いても色が出ないのが、フシギなRさん。変わらず粘土に夢中なS君。飛行機のギミックに力を入れている。ウデワがよく借りられて、小さな指や腕をくるくるしている。女の子たちと長なわとびをするが、どうもうまく跳べない。そのうち、なわを使った別の遊び。「サッカーできる？」と聞いてくる彼の顔が妙に大人びている。シュートが決まらず、「（相手を）笑わせといて、その間に入れるから。」と言われる。「パパ、パパ。」と呼ぶ人たちがいる。皆の回りを浮遊したり、着地して滞在したり、透明に近い関わり方。くもりやすこしかぜとはれ。

■5/18　ねんど力が深まっている。作ったサメを見せに来る。「伝説のサメをＴＶで見た。」というので絵と言葉で説明してもらう。目が４つある。ヒゲのような所で捕まえて、体内に隠れているトゲが出てきて等、細かく伝えてくれる。そばで聞いているＫ君も、時折知ってる事を呟く。腰回り周辺に居る皆々は半分聞いて、半分は自分たちも絵を描きたい。次は船になる。軍艦についての知識も色々語ってくれる。「なぜ船が海に浮かぶのか？」の質問に「風呂に桶を浮かべると、水の量が少なかったら沈むのではないか。」とか、話し合っているうちにどちらが言ったか、「海はとても大きくて船は小さいから浮かぶ。」という所に着地。作ったサメを壊しながら空母を作り始める。

途中でサメの顔が残っていたので「ジンベイ艦」となる。「この顔がええんよなあ。」と喜ぶ（先頭のデザインのこと）。知識と想像力を総動員して話す、そのやりとりはとても有意義。そして手を動かし粘土で作る。

これが良好な循環かしら。

みのり保育園

はじめてのはじめまして

松尾（まつお） 奏子（かなこ） 芸術士

4月、はじめての火曜日。
まずは挨拶「はじめまして〜…」年長組の部屋に立った私は薄ら笑いを浮かべ、いっぱいいっぱい。でも子どもたちはお構いなし。「だれっ！？」「なにするひと？」「こっちにきてあそぼう！」矢継ぎ早の質問に答えながら遊び、みんなで一緒に朝の会。あいさつの歌になんとなく合わせて歌って踊ると、クスクスクス笑われました。完全に変な人状態。改めて先生から「芸術士の松尾先生です」の紹介が。芸術士の時間には慣れっこの5歳児。「あ〜、あれね。」で、“なにすんの？ちょっとやそっとの遊びじゃ満足しませんよ？”という子どもたちからの見えないプレッシャーを感じながら私の活動は始まりました。
みのり保育園では年長組→年中組→年少組と各週ローテーション方式です。そのためソワソワした「はじめまして〜…」の時間が3週続き、子どもも私もお互いに名前を間違えつつ段々仲良しに。一緒に紙をビリビリしたり、チョークで絵を描き粉まみれになったり、段ボールで家やトンネルを作ったり。最初の頃は「できない、先生やって」という声が聞こえていたけど、最近は聞こえず…ちょっとさみしい。子どもたちの成長を実感する日々です。
墨絵をした時には、真っ黒になった画面に友だちとキラキラ絵の具をつけるKちゃん。何をしているのか聞くと「真っ黒で夜になっちゃったから、星をつけよん」何て素敵な発想でしょう。そして、なかなかやめられないとまらない子どもたち。土粘土で遊んでも、「そろそろ終わり。」の声に反応せず。「これママに持って帰る。」とじょうずにできた粘土のウサギを放しません。
後ろ髪を引かれる子どもたちを説得しつつ「今日の活動は楽しかった！！」「またやって！」と言われるようにがんばる日々が続いています。

城東保育園

絵あそび

谷 由貴 芸術士

芸術士となって丸７年、城東保育園での活動が私の芸術士活動の礎となっている。

活動は、２歳児から５歳児までの４クラス、４年間同じ子どもと接することで私の学びも多く、一人ひとりの個性を意識しながら気長に見守ることで成長の過程も人それぞれなのだと思えるようになった。

活動は、常にクラス全員での絵画作品制作。大きな絵を制作することもあれば、個人の制作をすることもあるが、活動名は「絵あそび」。

当初、園が子どもたちに絵を遊びの延長で捉えてもらいたいと名付けてくれたのだと思うが…今や意を得たり、子どもたちにとって私との活動はひとつの遊びとなっているようだ。

楽しいあそびを通して学んだことは無理なく身につき、その“当たり前”はいつか“自信”につながる。

みんなが一緒に楽しく遊ぶ為にはルールが不可欠、その時々で幾つかの決まりごとを考え、子どもたちが自由に安心して個性を発揮出来るあそびの場をつくることが、芸術士としての私の役割だと思えるようになった。

子どもを中心に据え、大人は常に“自分本位になっていないか？”ということを意識しながら保育を行なっている園での活動は、自由でなんとも心地良い。

れんげ保育園

一緒に過ごす時間

太田（おおた） 絵美子（えみこ） 芸術士

おおきくなぁれ、おおきくなぁれ。声をかけながら毎朝水やりをしてみんなが大切に育てている朝顔が、だんだんと花をつけ始めています。

その朝顔を採って来て、部屋でスケッチをした日。細かいシワや産毛の表現もしていて、びっくり。スケッチが終わったら、つるでかんむりを作って、被りっこ。花の色水あそびで使ったペットボトルはいつの間にかリレーのバトンになって、園庭でかけっこが始まりました。

子どもたちは、活動の周辺に、たくさんの発見や遊びがあることを教えてくれます。そんな日常の楽しみ方を教えてくれる、彼らと一緒に居られる時間がとても好き。

●粘土あそび

「わ〜！」「きもちいい〜！！」女の子たちは嬉しくて、粘土の上で飛び始めます。広がった粘土は隣と繋がって、広いじゅうたんになっていきました。

「粘土の道を作ろう！」力強く粘土を踏んで、みんなで道をつなげていきます。「工事中！」トンネルとねじねじ橋を建設中。電車も走ってる。「さぁ次は〇〇作ろう〜」それまで作っていたのを壊すと、また新しい作品づくりに取りかかります。時間をかけて作った作品を壊しても、また最初から！！子どもたちって、そんなところがスゴいなぁ〜。

最後までアイデアは尽きず、「せんせい、次はマリオのゲーム一緒に作ろうー！」とても楽しかったようです。

●巨大化するスケッチ

今日は朝から大雨、雷‥子どもたちも私もなんだかそわそわ。そこで、雷の画像を見せてみる。「できた！」「次！」「僕も！」「私も！！」スケッチが次々と出来あがります。もちろん、大雨と雷も。子どもたちの創作欲求は止まらない…。溢れるほど出来たみんなの絵をパッチワークみたいに張り合わせると、部屋いっぱい大迫力の作品が完成です。「うわ〜！すごい！！」「大きい〜！！！」当たり前のようにこんな大型作品を作ってしまう、君たちもすごい！

さくら伏石(ふせいし)保育園

キラキラお目々

松尾(まつお) 由美(ゆみ)(ぴんちゃん) 芸術士

アーキペラゴがくる！天井や階段、フロアーにはみんなで作った物がゆらゆら。荷物を運ぶ私に声がかかります。「ぴんちゃーん！どこいくん？」「今日は、ここー」楽しみにしている子どもたちが発信する言葉は宝物です。

3歳児は、「緑のおばさん作りたーい」「？？？」作った彼女は村長さんになりました。天井から見つめて…ブラブラ村人出没中。4歳児は、好きなものを糸に絡ませてぐるぐる。毛糸を丸めていても、つるつるすべってうまくいきません。「これって何つくりよん？」私は「何やろ?どなんなるか、わからんのやー」できあがったものはとてもかわいい、見たことのない卵みたいな物でした。フニャっとつぶれて動きだしそうです。「何が生まれるかな？」「恐竜ちゃうん？」恐竜作りは続きます。5歳児は、「ぴんちゃん、これ使ってこっちだして…ほらっ、こうしたら？」いろいろ考える子どもたち。「虹の赤ちゃんやな」「ここからブラリしよか？」「うん！なにがおってもええな？」そうして虹シリーズがどんどんと続くことになります。今は、虹のお家をつくっています。組み立てる作業に、小さな大工さんは四苦八苦！柱が立たん！壁がない…だけど屋根もいる。要求は次から次へと生まれます。私の「今日の材料はこんだけなんや」の言葉に「そっかぁ～あっ、これつなげると長くできる！ほらっほら」「じゃあ、これとこれにもっとくっつける？」「本物の大工さんみたいやー」なんとか大まかな家の本体を作りあげました。作るということは何をしてもいいし、最後がありません。その中に、”協力”や”責任”を考える時間があります。話しながら生まれる困った顔や笑い声。窓を覗く現実はハサミや梯子、大きさとの苦労やうまく使えない材料との格闘があるのです。作品たちに隠れているずっと続く工夫と思いやり。さまざまな経験のひとつひとつが繋がって、キラキラ輝いて見あげるその眼に出会うのです。

初音保育所（はつね）

ルカ・ローマ 芸術士
Luca ROMA

今年は、初音保育所での活動としては２年目でした。
私は２年続けて担当出来たことを２つの理由からとても嬉しく思っています。
●２年目になると、保育所のスタッフの皆さんとも、より理解しあえるようになり、子どもたちの担任の先生ともコミュニケーションがとりやすくなりました。
初年度はやはりお互い探り探りだった部分もあり、実際にはもっと深く出来た所が、コミュニケーションが十分でなかったため、不完全燃焼に終わっていた部分もあったと、２年目になると分かりました。
●子どもたちの成長を１年だけで見終えるのではなく、２年という長い期間において見られるのはとても素晴らしいことでした。１年だけでも大きな成長を遂げる子どもの時期において、２年も見られるというのは非常にラッキーなことです。
初音保育所はその活動の規模だけでなく色々な事を試みる事が出来、子どもたちに色々な機会を与える事が出来る可能性も大きい施設だと思います。
それらの可能性は、子どもたちへだけでなく、それを与えようとする私や他の大人への可能性でもあります。
本年度はあと数か月ですが、その中で子どもたちには芸術を通じて、楽しみながら成長し、学び、お互いを理解しあってもらえるよう頑張りたいと思います。

Sono contento di aver potuto lavorare due anni consecutivi qui per due motivi principali :
●Ora ci si conosce meglio ed è quindi più semplice lavorare insieme sia che si tratti dei bambini sia che si tratti dei maestri. Il primo anno così diventa come un riscaldamento per capirsi a vicenda e rodarsi ed nel secondo si può elaborare meglio alcuni temi già fatti e iniziarne altri con più tranquillità e fiducia reciproca.
●È sempre bello vedere crescere ogni bambino anche solo nell'arco di un anno e nell'arco di due lo è stato ancora di più .
Hatsune è un grande asilo con tante possibilità che mi mette sempre alla prova per capire cosa io posso dare di più ai bambini attraverso l'arte e me stesso.
Anche i prossimi mesi cercherò di dare ai bambini modi per crescere , imparare e comunicare divertendosi.

Luca

サンシャインこどもの森

きのうよりもきょう。

松家 若奈 芸術士

開園2年目のサンシャインこどもの森。
森をイメージしたピカピカの園舎に青々とした芝生のお庭が眩しい。
春、はじめての活動。芸術士として一歩を踏み出したばかりのわたしに、子どもたちは笑顔を向けてくれました。
「おはよう」と挨拶を交わすと「今日は、どこ行くん？」と聞きます。「今日は、しか組さんだよ」「やったー！」
そんな会話を毎回。
子どもたちが芸術士活動を楽しみにしていることを実感します。
活動中は、迷いなくスラスラと描く子もいれば「じょうずに描けない」と手を止めてしまう子もいます。時々「描いて」とペンと紙を持ってくる子もいます。そんな時は「描きたいものはなぁに？」「どうして描きたいと思ったの？」「どんな形だったか、思い出してみよう」とアプローチ。色・形・シチュエーションを一緒に考えてみます。「じょうずに描けない」と言いつつも、いつも頭のなかには、ちゃんとあるのです。それを少しずつ、パズルのように組みあげていきます。
「ほぅら、頭のなかにできあがってきたんじゃない？」
もう一度紙に向かうと、迷いながらではありますが描いています。
“じょうずであるかどうか”ではなくて“なぜ描きたいのか”という気持ちと「これを描いたんです」と胸を張って言えることが大事なのだと思います。「ねぇねぇ、できた！！」と作品を持ってくる姿は、ちょっぴり大人になったような、誇らしい顔をしています。活動が終わって、お昼ご飯を一緒に食べていると、秘密を打ち明けるように「今日、えのぐでぬるの、たのしかった」と囁きます。「またしようね！」と応えると、にっこり笑顔。その笑顔がどれほどわたしに元気を与えているのか、きっと知らないのでしょう。

前田幼稚園（まえだ）

ひとつひとつがキラキラの世界

モーリエール 瞳（ひとみ） 芸術士

●はじめましての日

膝にのったり、ほっぺにちゅしてくれるMちゃん。

●透明シートにお絵描き

「ドラゴンが描きたいけど、僕描けん！」というHくん。「ドラゴンにはな、羽があるんや。」「尻尾は長いんやっけ？」「火、噴くんやっけ？」やりとりを重ね、ドラゴンを描きあげたHくん。それから、気に入って何体もドラゴンを描いた。周りの男の子たちも、「おれも、かく！」とドラゴンを描く。「ぼくのが一番格好いい！」と言わんばかり、Hくんのドラゴンは、4mほどのなが一い火を吹いた。

同じ日、Mちゃんはシンデレラを描く。活動後、私が後片付けをしていると、「ひとみちゃん、シンデレラみたいや。」

●泡あそび

綺麗な色模様ができるからと布を用意していたが、その上でツルツル大会が始まる。キャァキャァ、大笑いで発散、気持ち良さそう！泡だらけになったみんな、遊びきった様子で、すんなり片付けに入っていった。

●綿染め

綿染めの段階から、「リボンが作りたい！」と嬉しそうに言っていたUちゃん、最初からそれが作りたかったから、始まると自分の理想のリボンめがけて制作。頭に乗せ、「かわいい、かわいい。」とっても満足そうだった。 それから会うたび、「ひとみちゃんや！」大きな笑顔で迎えてくれる。

●ムーさんとガチャプール。

「ムーさんて、ひとみちゃんのお父さんなん？」ウキウキして、始まる前から笑いが止まらないTちゃん。

●絵の具大好き年少組と。

金色が少し付いたYちゃん。「キラキラ。」照れ笑い。同じ日、運動会の振り付けを考案中、Yちゃんが面白いカエルの動きを発見。「その動き、採用！子どもっていいでしょ！この子たちね、とってもとっても素敵なんです！」嬉しそうな先生がキラキラしていた。

林幼稚園（はやし）

たのしいきもち

松野（まつの） 礼子（れいこ） 芸術士

２年目の林幼稚園。今年の活動が始まって久しぶりに顔を出すとKくんが「おかえり！どこいっとったん？」と聞いてきたり、「そんなかおしとったっけ？」という子もいたり。私の姿を見つけて「まっちゃん！」と何度もジャンプしたので、私もジャンプで返すとキャッキャッと喜ぶ顔。

活動では、最初から楽しみ方を知っているようで全力で楽しむ子どもたち。ちょっと怖い苦手なことがある子も、他の友だちが楽しんでいる所に一緒にいると、嫌がっていた事も忘れて楽しい輪の中にスッと入っていく。

汚れることが苦手な子が手の汚れる活動に参加していたり、笑顔が少なかった子の笑顔が見られたり、私の声も届かない程に夢中で描いていたり、そんな小さいことが実はとても大きくて私の中に楽しい気持ちが入ってくる。

（写真１）「つめ～」で描く～。

（写真２）色水を入れたビニール袋に穴を開けて色を混ぜる。「これもあけて」と次々にリクエスト。

（写真３）色水遊びをした後、ビニール袋に入れて部屋に吊るした色水。「おまつりみたい」

（写真４）一緒に遠足へ。しましま模様の木目を見て「もくせい！」と一言。本当だ、プラネタリウムで見た木星そっくり。

（写真５）雨の雫を見て「たまごみたい」「え？卵？」と聞くと「あめのたまご」とポツリ。

（写真６）パステルあそび。手も体も足も。

（写真７）机から落ちる水に向かってシャボン玉を飛ばす。

（写真８）「こいのぼりふうせんの中に入ろう。」カーテンを閉めて、電気も消して、長く暗いトンネルのような黒い風船の中に入る。ちょっと怖いこともみんな一緒だと楽しいことに変わる。

（写真９）風船づくり。ゴミ袋を繋げて大きな風船に。扇風機で空気を入れ膨らむ姿を見てテンションもどんどん上がる。ジャンプで触る、捕まえる。子どもたちが付けた名前は「こいのぼりふうせん」。

一宮幼稚園（いちのみや）

果てしない世界

松家（まつか） 若奈（わかな） 芸術士

「呼び方はみんなで決めていいよ」
はじめて子どもたちと会った日に「わかちゃん」と呼んでくれることに決定。なんだか照れくさいな、と思いながらも今ではすっかり慣れてしまいました。

わたしは“想像”することを大切にしています。
“家族への思い・楽しかった思い出・感動した風景・悲しかった出来事”など自分の経験から思い返すことは、作品の礎になります。また“相手の気持ちになってみること”や“物になりきること”など、未知なる世界も想像の中でならいくらでも道は伸びていきます。経験と未経験がぶつかって、新たな道ができることもあるかもしれない。
頭の中に“想像の世界をつくる”。それから現実の紙の中に、できあがった“想像の世界”を閉じ込めるのです。
だからたくさん言葉を交わします。目を瞑って、真っ暗な闇に灯を点す。
「そこにはなにがある？」
灯が風で揺らめくと、あっという間にカラフルな世界へ。
溢れるように、見えてくる。
「遠くの方に山がある」「光る山だ！」
“手には魔法のほうき”どこにだって飛んでいける。
眼下に見える街並み、活気付いたお店やさん。
風が吹き、雨が降り注ぎ、夜と昼が混ざり合い、清々しい空気に深呼吸したくなる。
制作過程の中で、友だちの想像と共鳴したり、ときには反発したりしてまた新しい風が吹く。

一人では見られなかった景色も、仲間と一緒なら見られることもあるのです。
あちこちから聞こえてくる「わかちゃん、見て！」という声。
キラキラと輝く世界に包まれた子どもたちの笑顔が、わたしの世界にも刻まれました。

多肥幼稚園

「いままでとこれから。」

平川 めぐみ 芸術士

続けてきた芸術士活動も、今年度で４年目に入ります。
前年度は、子どもの声を聴くのはもちろんのこと、それに関わる大人（先生方・保護者）の方に伝えることを怠っていたと感じていました。
今年度は、みんなと一緒に話し合いをして「どうすればいいと思う？」という問いかけと対話を大事にしていて、それを先生方も見守ってくれています。
帰りの際に、今日あった出来事をお母さん方と共有しています。先生や保護者の方にとって、私が入ることで、少しでも余裕や心の隙間ができ、子どもの新しい一面を発見できればいいと思いお手伝いをしています。

普段は、みんなの前で伝えることが苦手な子が、私との時間のなかでは積極的に発言をしたり“これでいいんだ！”が徐々に出てきました。
子どもたちから発生した「こどもマック」。マクドナルドを題材にした制作が子どもの中からはじまり、自由時間での自発的な制作を先生と共有したことでそれが幼稚園バザーの題材となりました。

はじまりは、１人の男の子からでした。

その活動がどんどん大きくなる。はじめは、自分の手から離れて行くことの怖さがあったよう。社会と一緒で、自分の作っているものが他者にわたり、思うように行かない不安もあっただろう。広げてゆく、ということは不安もあるが、それ以上に喜びもあったことと思います。
お客さんに提供する。お待たせすることもあったけど、ポテトをつくり、ドリンクを作り、パンにはさみ、トレーを美しく保つ。
子どもたちから生まれる小さな社会。大人の社会への密かな憧れ。

川岡幼稚園（かわおか）

一緒にごはんをたべる

松岡（まつおか） 美江（みえ） 芸術士

4月、”どんな子どもたちがいるのだろう”とワクワクしながら遠足に同行して、約9ヶ月が経った今でも、子どもたちの動きや反応に興味津々です。

川岡幼稚園では、行事に向けての活動や、日常生活で友達と楽しく過ごす中で、季節を感じ、体を動かし、描き、つくり、育てるなどが、日常的に行われており、私と行ういろいろな活動にも積極的に、全力で取り組んでいます。

ままごとをするように、子どもたちは実生活で経験したことの再現遊びなどをして過ごしています。週に一度、いつもと少し違うこと、いつもより少しダイナミックなこと、今までに使ったことがない素材、方法など、先生だけど先生じゃない不思議な人と一緒に過ごす時間。何かをする日だと、いつもとは違う時間が訪れると子どもたちの期待は膨らみ、目をキラキラと輝かせています。

活動の成果を期待するよりも、特別なことではないけれど、日常の中で見えていなかったものを見つけ、どのようにして自分の体の中に入れ、中から外に出したらどんなものになるのか。「表現」、仮想のような現実を楽しみながら、まだまだ内に隠れている爆発的な何かを一緒に探し、また普段の生活の中で起こる些細なことにもおもしろさを感じる材料になればと願っています。

教育者である先生と過ごす時間も私にとって大変貴重な経験になっており、子どもたちが1時間、1日で変わっていく姿を見ていて、私自身も驚きと発見の繰り返しです。

朝、子どもたちと会うと、「どこのクラスなの？」「何をするの？」そして、「一緒にごはん食べよう食べよう！」と子どもたちが誘います。大事なこと、大切な時間はとても身近にあるのかもしれません。もう折り返し地点、これから起こる何かに私自身も興味が尽きることがありません。

弦打幼稚園

繰り返すことで自信が生まれる

谷 由貴 芸術士

この園での活動は、現在３年目。小さかった３歳児ばら組も５歳児きく組に成長した。

ばら組は絵の具やクレヨンで自由に遊んだり、のりで貼り付けることが主な活動。個々に表現出来たことやきちんと出来たことを認めたり褒めたりし“制作することは楽しいことなんだ”と思えるように。

４歳児もも組では、異なる素材を選び組み合わせること、ハサミで思い通りに切ったものを貼り付けることなどを繰り返すことで、表現する手段を豊かにし、よりイメージに近いものを素材を楽しみながら表現出来るように。

５歳児きく組になると、それまでの経験の積み重ねを生かした制作の中で、個々が表現したものをみんなで認め合うこと。繰り返し認められることで個性を発揮することは素晴らしいと実感し、自信を持って表現出来るように。

子どもたちは、常に全開で未来に向かって成長を繰り返している！
３年間という限られた時間の中で、芸術士として自分は子どもたちに何を伝え、一緒に何が出来るだろうと繰り返し問いかけながらの活動…子どもたちの真剣な眼差しと制作風景、出来あがった素敵な作品を目の当たりにする度に子どもを持たない私は、自身の存在を少しだけ未来に繋げているようでワクワクし、自信をもらっている。

鬼無幼稚園

子どもたちとの関わり

すぎやま あゆみ 芸術士

勝賀山の近く鬼無地区では、桜の樹の広場・田んぼの間をすり抜けるあぜ道（あめんぼ、大きな蛙など。）、季節の移りゆく様子を感じる事ができる環境です。この土地で3年目の活動が、始まります。

園の行事や保育にできるだけ寄り添い、芸術の技法を用い・記憶（幼少期の環境、経験したこと。）を辿り、何ができるかを考えてみました。

・歯科検診の前日、まだ入園して間もない年少児をほぐそうと、譲ってもらった歯の模型を園に持ちこみます。模型の歯は抜けるので、実際に触ってみたり、ほろりと歯を取ってみたり。模型に夢中。年少児は、実際にブラシを持って模型をみんなでしゃかしゃか磨いてみる。その後、歯科検診では泣かなかったそう。

・園庭での泥んこ、あわあわケーキ遊び。石鹸を削り、泡立て機を用い、絵の具やバニラエッセンスやフレーバーなども加えケーキ作りに参加しました。どろどろぬたぬたの泥んこ遊びでは、一緒に裸足になり、土粘土やテラコッタ風赤土も素材として加えます。年長児の男の子グループでは、水たまりで島を作り始め、物語が始まります。柔らかくなった土の感触で遊ぶ子もいれば、器用に指で絵を描いている子も見られます。全国の土を染料として取り扱いをしているところから取り寄せ、色の違いも体験します。

少人数、この人数だからこそ関われる事やできる事、ふと気がつくことがあると思います。“この子にはこんな風な声かけをすると表現が豊かになり伸びる”、それからとてもいい表情。できない事ができるように成り、でも失敗もするけれどたくましく、日々成長してゆく姿には微笑ましい。下半期へと続く。私にとって子どもたちとの関わりは、かけ離れた物ではなく内なる自分との向き合い。それは日常のかたすみに転がっているはず。聴く耳を持つ力となり、自身の作家活動にも反映している。柔軟性が伴い自身の行動が有意義で余裕のあるものになっている。

檀浦幼稚園（だんのうら）

カタタ　チサト 芸術士

檀浦幼稚園では、少人数の異年齢グループで一人ひとりがじっくり事柄に関われる活動を行っている。

風や匂い、音などといった抽象的な事柄を子どもたちと探しにいき、見たり、触れたり、色々な感じ方でつかまえる。

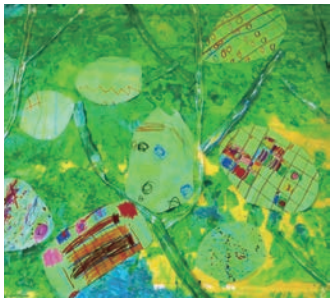
ある日は白い世界に出会うところからスタート。温度・匂い・光・音・指先のみで触った時の感じ方と、後に目で見て、頬ずり・手でもんだりして触り込んだ時の感じ方は全く違った。白い世界から「好き」を選んでいく際は、見た目だけじゃない直感を働かせつつ、目の前で花のように散る軽さに心奪われ、動かしてみたり透かしたりしてひとつひとつセレクトしていた。選んでいく道中には物語がうまれ、自分に合体させたり、友だちや先生ともくっついたりしながら「好き」は自在にふくらんでいく。その瞬間瞬間の彼らの反応・身体の変化・リズム「おどっているようだ！」と興奮を隠せない。

そして白い色々は空を舞い、彼らは風を見る。舞い散るスピードはそれぞれに、思わぬ方向に飛ぶ。布が風をはらみ逃げていき、それを追いかける彼らは同じ様で、子どもが一人増えて、鬼ごっこをしているようだった。

見あげた風を床に置けば、雲の物語が現れ、空の池で眠り、竜の背で飛びはねる彼らの姿があった。風の目になり「あ、木の下に人が見えたよ。」と教えていた。

自分たちでつかまえた音やリズムを録音した時は、聴きながら自然とからだが揺れて、歌もうまれて声が出たり、リズムも合わさった！檀浦幼稚園から、“新しい音楽とダンスがうまれた瞬間”だった。

抽象的なことも活動の中で彼らと出会い、探求され、物語られ、彼らそれぞれの想いと合体し、そうして彼らの日常の中にすぅっと溶けこんでいく。



田井（たい）幼稚園

食ＡＲＴ

佐々木（ささき） あずさ 芸術士

今年度から始まった田井幼稚園での芸術士の活動。物作りが大好きな田井幼稚園の子どもたち。朝、子どもたちに会うと折り紙や工作をして遊んでいます。「あずさ先生見て！！時計が出来た！！」や「忍者の巻物を作ってるんや！！」と制作している物を満面の笑顔で見せています。

田井幼稚園の園庭には大きな畑があり、季節の野菜が沢山育っています。

食育や地域の交流を大切にしている田井幼稚園。そんな田井幼稚園での芸術士の活動も「野菜」や「自然」をテーマに作品作りを進めていくことが多いです。

そら豆の収穫後、そら豆になるための変身セットを制作していきました。敷きカバーはそら豆の皮、色画用紙はそら豆のお面に大変身！！

「そら豆の皮に入るなら、皆そら豆にならなきゃ！！」とそら豆になるためのお面を制作していきました。

「ここにお鼻があるんだよ！！」や「リボンを描くの！！」と自分のオリジナルのそら豆を仕上げた後、皆がお待ちかねの時間。「そら豆の皮の中に僕（私）が入るんやー！！」とそら豆に一斉に入ろうとする子どもたち。そら豆の皮の中はぎゅうぎゅうでいっぱいに！！

「そら豆のお布団暖かい！！」や「ふわふわで気持ちいい！！」とフリース素材にご満悦の様子で、皆でそら豆になりきって楽しく遊ぶことが出来ました。

その他にも運動会で飾るガーランドでは、文字はボディペイントで仕上げていき、旗の周りを収穫したオクラを使いオクラスタンプで彩っていきました。

子どもたちの育てた野菜から発展させた作品は、生き生きしていてダイナミックで、いつも楽しませてもらっています。「食育」からの「食ＡＲＴ」次回はどんな作品ができるのか今後の芸術士活動も楽しみです。

大町幼稚園（おおまち）

アルバム台紙を使って

高松（たかまつ） 明日香（あすか） 芸術士

平成２８年９月１２日（月）、今日はアルバムの台紙を持ってきました。透明のフィルムをめくり、中の台紙に写真を貼りつけるタイプのアルバム台紙です。中に折り紙などを貼りつけてもいいですし、先生の許可もいただいたので園庭の木の葉などを採取し貼りつけることもできます。様々な画材や材料を組み合わせて作ることに挑戦してもらいました。

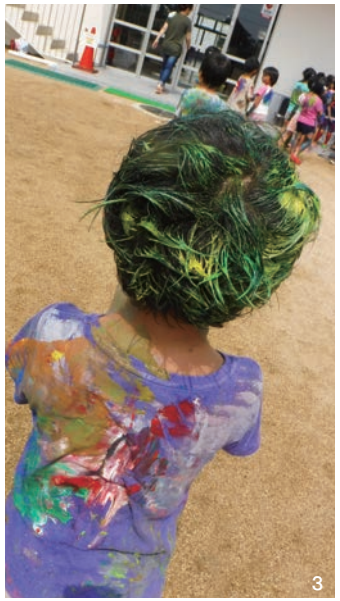
折り紙の中でもやはりキラキラ系に目がいくようで、金色の折り紙のまわりに木の葉をちらして貼りつけ、さらにマジックで描き込んでいます。別の子はマジックで描いた線と組み合わせるように木の葉を配置しています。マジックとクレヨンを使い分けて描いている子もいました。

木の葉をフィルムにはさんだ子が、文鎮を３本持ってきて重しをしています。厚めの葉を貼りつけ、フィルムが台紙から浮いていたので、台紙により強くくっつけようとしていたようです。アイデアだなと思います。ふと気が付くと、みなさんだんだんと木の葉採取に夢中になり、たくさんの種類の葉を探してきていました。

台紙のフィルム上にマジックで絵を描いている子がいます。隣の子はフィルム上に赤いクレヨンで描き、中の台紙部分にもまた別の絵を描いていて何度もフィルムを台紙につけたりめくったりしながら絵の変化を楽しんでいました。アニマル柄の折り紙を小さくちぎり自分が描いた絵のまわりに細かく貼りつけている子や、大胆に四角いまま貼りつけている子もいます。

台紙からはみ出た部分はハサミで丁寧に切り取っていました。

最後までじっくりと折り紙の色を選んでいた子は、非常に考えられた配色と大きさで折り紙を配置し、最後にクレヨンで仕上げをしてうれしそうな表情で作品を眺めていました。



川東幼稚園

変わること、変わらないこと

岩佐 百合子 芸術士

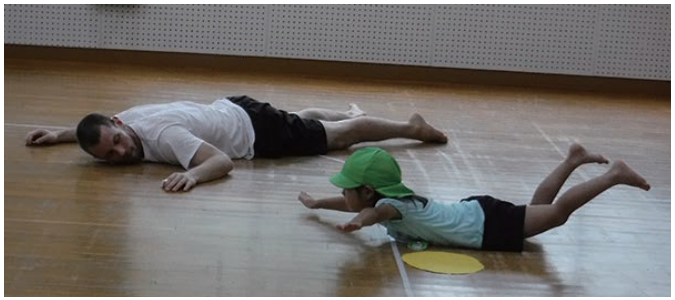
芸術士活動2年目。年長組、年中組の子どもたちとはもちろん、引き続きお世話になる先生方もおり、お互い初めてだった昨年度とは全く違ったスタートとなりました。

同じ季節をたどるにも、子どもたちはぐんと成長しています。しかし、ふいに見せる子どもたちの変わらない無邪気さや好奇心いっぱいのいたずら心、愛嬌たっぷりの姿、そして優しさ、強くありたいという気持ち。それは何気ないちょっとした言葉や表情、行動から伝わってきます。造形活動でも同じです。昨年度と同じ活動をしていて、「昨年は少ししか身体につけていなかったのに今年は頭や顔までワイルドになった！（写真3・6）」などという変化した場面や、「アクセサリーなどのファッション系の活動はいつも積極的！（写真1）」「1年前もひとつひとつの物事にみんなを思わず笑顔にする反応をしていたなー（写真2）」などという変わらない場面の両面を見ることができています。

もちろん、変化した場面に出会うととても嬉しい気持ちになります。しかし、すべてが変わっていく訳ではないということも改めて学んでいます。そして、子どもたち一人ひとりの変わらない芯の部分も、とても大切だと気付くことができました。それらは、これから子どもたちが歩んでいく道のりの中で、何か壁にぶつかって立ち止まる日が来た時、自信や前に進む光となる大切なものに育っていくのではないかと感じています。

技術的なものや勉強などとは違った、子どもたちがそれぞれ持っている大切な変わらないこと。芸術士活動でみんなと時間を共有していると、そんな宝物をたくさん見つけることができます。これからも、一人ひとりが持っている宝物にたくさん出会えるよう、様々な素材や活動を先生方と共に考えながら、子どもたちの声に耳を傾け、活動していきたいと思います。

（写真4・7）嵐の日は雷雲を、晴天の日は青空を描く
（写真5・8）星雲を知って作って描いて、宇宙を作る



国分寺北部幼稚園（こくぶんじほくぶ）

からだとの対話

Koerper im Dialog

マークス・ボムスキー　芸術士

Marcus BOMSKI

子どもたちのからだは、いつも動きたくてウズウズしています。それはたぶん、子どもたちがまだ大人たちみたいに頭デッカチじゃないからかもしれません。子どもたちは頭で考える前に、からだでやってみます。やってみながら、それが何かを感じています。

クラスでの活動の始まりは、みんなで輪になり座ります。輪になって、ゆっくりストレッチをしたり、ネコやイヌや木になってヨガのポーズをとります。言葉で誰かとおしゃべりすることもできますが、言葉なしで自分のからだに話しかけてみることで不思議と心地良い静けさと集中力のある空間が生まれてきます。

リズムに合わせて、からだのいろんな場所を動かします。足でリズムをとると、なぜか楽しい気持ちが湧いてくる。クラスのみんなで一緒に動くと、その楽しさも倍増したりするんです。からだのいろんな場所を使って、いろんなダンスが生まれます。ウキウキしたり、動物みたいだったり、怪獣みたいだったり。

いろんな色の風船や紙を使って、動いてみます。ペアになって紙や風船を落とさないように、二人でバランスをとったり、スピードを合わせたり、距離を測ったりして空間を移動します。「こうするんだよ。」と教えなくても、子どもたちは繰り返しの中でそれらを試行錯誤して、からだで学んでいきます。

もちろん、一連の作業は遊びの要素を含み、子どもたちの“楽しみ”や“喜び”がとても大切だと考えます。からだを通しての遊び、からだを通しての“楽しみ”や“喜び”がより質の高い集中力やコミュニケーションを生み出します。

Kinder haben einen ausgepraegten Bewegungsdrang, dem sie im Gegesatz zu Erwachsenen eher unueberlegt und spontan aus dem Moment heraus folgen. Sie erkunden ihre Umwelt mit einem immer bewegten Koerper und geben so auch ihrer inneren Welt Ausdruck. Ihre physische Praesenz is zentraler Dreh und Angelpunkt ihrer Kommunikation mit der Aussenwelt.

Jede Klasse beginnt mit gemeinsamen Dehnen und Aufwaermen im Kreis. Zentraler Teil sind auch Yogaposen wie der Baum, der Hund und die Katze. Durch das gemeinsame Tun wird die Konzentration auf den Koerper und den Raum gelenkt. In Stille wird der Koerper und ein Gruppengefuehl spuerbar und erfahrbar.
Durch das Einbringen von rhytmischen Elementen wird der Sinn fuer die Gruppe weiter gestaerkt, es werden Emotionen geweckt und unterschiedlichen Energien Raum gegeben. Manchmal sind wir Tiere, Monster, Geister, Pflanzen oder vieles zugleich. Phantasie wird geweckt und in Bewegung zur Kommunikation gebracht. Der fokusierte Bezug auf unterschiedliche Koerperteile schaerf spielerisch das Gefuehl fuer den eigenen Koerper.

Durch den Einsatz von einfachen Materialien wie Luftballons und farbiges Papier werden weitere Impulse gegeben mit dem Raum und mit den anderen Kindern physisch in weiter Kontakt zu treten. Ziel ist es hier durch das geben einfacher Aufgaben die Kinder selbst zum ausprobieren und zum wie, wo und warum zu motivieren. Durch diese Spielregeln entsteht ein Rahmen in dem der eigene Koerper und seine Faehigkeiten im Austausch mit der Gruppe und alleine erkundet werden kann. Es geht nicht um das Nachahmen von Bewegungsmustern sondern vielmehr um das Finden eines eigenen Ausdrucks, einer physischen Identitaet und das Ausloten der eigenen Moeglichkeiten Spielerisch, frei und ungezwungen. Konzentriert, offen und wach.

先生に聞きました！

芸術士活動ってどんなもの？

『魔法使いの世界へようこそ』

所庭の真ん中に置いてある船の中から現れ、布をかぶり突然始まったカタタンのダンス。みんな何が始まったのかと吸い込まれるようにじっとみていました。「おばけなん？」「こわかったぁ」と会話も弾んでいました。
カタタンの服が風になびいていたある日、みんなで風になろうと、全身で風を感じ、ビニールの羽をつけて動く子ども達はまるで大空を飛ぶ鳥のようでした。
色々な布がなんにでも変身し、衣装になったり、海になったり…さまざまな素材・色の世界を楽しむ子ども達は生き生きとしてとてもいい表情です。
いろいろな魔法の世界へ子ども達を誘ってくれるこの出会いをこれからも大切にしていきたいと思います。

瀬戸内保育所

『★一人ひとりが輝くことができる時間★』

イッツ ショー タイム!! まさに一人ひとりの新たな一面が引き出される素敵な時間。子どもたちの未知なる発想と芸術士さんの思いがマッチングして予想を上回る展開になることも…「いいね♥」と認めてもらえたことが嬉しく、胸躍らせながら自由にダイナミックに表現することに夢中になっている子どもたち。個性豊かな作品の数々と満足感に満ちあふれた笑顔が誕生しています。

扇町保育所

『新しいモノ・コトとの出会い・発見』

音楽に合わせての表現活動では、フリーダさんの感性に子ども達や保育者も刺激を受け、心が開放されて、自分なりの表現を思いっきり楽しんでいました。毎回、新たな表現方法や素材に出会って驚きや発見があり、活動がより豊かになりました。保護者向けのワークショップでは、コミュニケーションのための発声法や呼吸法について実際に体験することで、保護者の芸術士活動への興味や関心が高まりました。

宮脇保育所

『新しい世界の発見!!』

「明日はささき先生がくる日やろ？」と毎週楽しみにしている子どもたち。芸術士さんならではのユニークな発想や素材使い、色の組み合わせ方など、子どもたちだけでなく、私たち保育士もなるほど～と目からウロコ!!で♪わくわく♫の連続です。

また、芸術活動だけでなく、一緒に給食を食べたり、遊んだり、先生との何気ないおしゃべりの時間も楽しんでいる子どもたちで、今や、ささき先生は福岡保育所にとってなくてはならない存在になっています。

福岡保育所

『新たな好奇心の創造』

子ども達は毎回芸術士の先生が来てくれることを楽しみにしている。保育士では思い浮かばないこと、できないことを経験させてくれると心や体で感じ取っているのだろう。
先日、靴下を切って遊んだ。普段身につけるものを遊ぶ材料に。子ども達は大喜びで「あんなことしよう」「こうしてはどうかな」と好奇心をくすぐられ、ネックレスやみ化け、輪ゴム鉄にして飛ばしっこなど時が経つことを忘れて、夢中になっていた。

鶴尾保育所

『ウキウキ！ワクワク！たのしそう！！』

長野先生と一緒に今年の運動会のテーマである「オリンピック」の旗づくりを行いました。部屋いっぱいを使った活動から、デザイン案への活動へと変化していく中で、子ども達は線と線が組み合わさると形が見えてくることや、形と形を組み合わせると新しい形が見えてくることを発見！「あー！三角になった！」と発見にウキウキ♪長野先生との活動は「今日は何が始まるのかな！？」と子ども達にとってワクワク楽しい時間になっています。

古高松保育所

『色のふしぎを教えてくれる』

あか・き・あおの 3 色の絵の具を使って好きな絵を描きました。「色がまざるとおもしろいかも・・・。」という言葉で、子どもたちは恐る恐る絵の具を少しずつとって混ぜてみました。すると、「みどりになったー！」「むらさきみたい！」「すごいねー！」と驚いたり、喜んだり・・・。子どもたちの反応に芸術士さんも一緒になって喜んでくれました。自分で見つけた色で、虫やにじ、友達のかおなど思い思いの絵をのびのびと描き、絵を描く楽しさを心いっぱい感じていたようです。

屋島保育所

『笑顔がいっぱい』

「こんなん持ってきたよ！」と、ぴんちゃん先生がもってくる予想外な材料やアイデアに子どもたちも私たちもワクワクしながらニッコリ！ 活動中に「すてきやわ！」「それでいいんだよ。」と、ありのままの姿を受けとめてくれるぴんちゃん先生の言葉に子どもたちは思わずニッコリ！ その言葉に引き出された新たな一面を見せる子どもたちの姿を見て私たちも思わずニッコリ！ ぴんちゃん先生と過ごす時間は笑顔がいっぱいになる時間です。

林保育所

『“今日ひーちゃん先生の日や”って思ったらドキドキする。』

わくわくデー（異年齢交流の日）に、透明ビニールシート、手作りシャボン液、大量の片栗粉、土粘土 etc・・・。思いに添った遊びの中で、誰もが「ひーちゃん先生と一緒に遊んでみたい」と思い、その子、その子なりの参加の仕方で楽しんでいます。時間も素材もたっぷり、ゆったりとした時間の中で遊びながら、子どもが自分たちでいろいろな遊び方をみつけ、その発見に誰よりも驚き、一緒に楽しんでくれるひーちゃん先生の存在で、遊びがもっともっと広がっています。

浅野保育所

『子どもの一瞬を宝物に変えるひとしき』

芸術士活動の記録を見せて頂く度、そこに移っている子どもの表情の輝きに驚かされます。子どもの最高の瞬間を促しているのは、もちろん、芸術士活動の中では、そんな表情がいっぱいであることに改めて気付かされます。子どもの表現を“視る”ことにおいて、学ぶことが本当にたくさんあります。

牟礼保育所

『 出会いの連続 』

●子どもにとっても保育教育士にとっても新しい出会い。
イタリア出身のルカさんと今では「チャオ～！」「こんなことしたいけど、大丈夫？OK？」とみんなが笑顔で声をかけ合う素敵な関係。
芸術士活動があるからこそ出会えた私たち、幸せです。

●芸術士のオリジナリティあふれる素材・道具・遊びとの出会い。
カンナを使って木を削る、ロープを使った忍者ごっこ、石膏を使って手形とり…。
「何が始まるの？やってみたい！」子どもたちの目も保育教育士の目もキラキラ輝きます。
「こんなものがこんな風に使えるなんて。」という発見も多く、保育の幅も広がっています。

田井保育所

『 わくわくと発見の時間 』

今年度、芸術士活動では、いろいろな素材や材料を使って作品を作ったり、感触を身体で感じたり、新しい発見がいっぱいで毎回とても楽しみにしているし、私たち保育士もとても勉強になっています。
子どもたちに「芸術士活動ってどんなの？」ときいてみると「たのしい」「わくわくする」「新しい発見ができる」「むずかしいところもあるけど山田先生が教えてくれるからがんばれる」など たくさんの意見がでました。

高松保育園

『明日につながるアイデア』

子どもたちはとても想像力が豊かで、思いもよらない発想をすることがあるのですが、樫本芸術士はそんな子どもたちの閃きを余すことなく作品に反映させてくれます。色の使い方や素材の工夫の仕方など、子どもの思いに寄り添った指導をして下さるので、子どもたちも「こんな方法があったんだ」と目を輝かせながら製作に取り組んでいます。藍染に挑戦した際には、葉っぱ一枚から新たな発見の連続で、心動かす貴重な経験ができました。

敬愛保育園

『心の鍵のトレジャーハンター 』

子どもたちは皆心の中に、宝物を持っています。
キラキラだったり、ピカピカだったり色んな形だったり色だったり。
一人一人違うけど、みーんなが持っている宝物。その中には、その子だけの宝物が眠っています。
芸術士さんは、子どもたちにとってその宝箱を開ける鍵と一緒に探してくれる冒険の仲間です。時にはダイナミックに、時にはそっと寄り添いながら。一体どんなものが飛び出すんだろうね！と一緒に目を輝かせてくれる最高の仲間なのです。
これからもよろしくお願いします。

西春日保育所

『わぁ～ かっこいい！芸術みたいや～ 』

樫本せんせ大好きっ

芸術士さんとの活動が始まったことで、土粘土や塗めもの、製作などのアイディアをたくさんもらって遊びはどんどんひろがっています。
ある日 どんぐりの木を絵の具でぬっていた時のこと。たまたま色にグラデーションが出た時…「うわぁ～かっこいい！芸術みたいや～」と言う5歳児。どうもかっこいい！上手だ！というほめ言葉を「芸術みたい～」とほめ合うのが最高の褒め言葉なんですよ～と4歳児の担任。
今日はお母さんからノートに、"先日作って持って帰ったアイマスク？とても気に入っているようで、毎晩寝る前にとり出してかけてねむっています。"と書いてありました。かけてねむるとかっこ良くなれるそうです。

こぶし中央保育園

『 保育の起爆剤 』

先日、街と車の作品を作った時のこと。私たちは〝飾って完成〟と考えがちですが、そこは芸術士のまっちゃん！飾るだけで終わらず、街の上で車を走らせて遊ぶことを提案してくれました。
実際、作った車を走らせた子どもたちは大喜びで、作品全体を味わっていました。
まっちゃんの自由さが保育者の硬い感性を打ち砕いてくれ、子ども共々豊かに楽しめています。

西光寺保育所

『 自由に表現できる時間 』

保育士が行う制作活動は先に完成した形を決めていたり、表現方法も制限させてしまったりと、型にはめた指導方法が多くなりがちですが、芸術士活動では子どもたち一人ひとりが自分で考え想像をふくらませ表現豊かな個性的な作品を作ることができています。またボディペインティング、土粘土、映像を使った活動などダイナミックなあそびも提供してくれる芸術士活動を子どもたちはいつも楽しみにしています。

川添保育園

『 可能性 』

私の園では、普段の保育の中で、今の子どもの姿から予想して、次に子どもが展開しながらあそべる環境はどんなことだろうと保育者が考えながら、保育しています。
その中で、どうしても自分の限られた経験や知識だけの中からアイデアを出すことが多いので、行詰まることが多々あります。
私は、普段子どもたちと歌を歌う時に、ギターを使っています。それに影響を受けて、子どもたちが廃材を使ってギターを作ろうとしたのです。いくつかの材料は準備してみたのですが、うまくいかず、せっかくの子どもの「作りたい」という気持ちも薄れはじめ、私もどのようにして環境を整えたらいいのか、援助したらいいのかと思い、芸術士の先生に相談しました。そのアイデアは、段ボール、発泡スチロールのカップ、輪ゴムなどでした。
その材料が子どもたちの前に出されると、それはもう子どもたちはすぐに魅せられ、私が用意したものと違って、より本物に見えるような素材だったので、「絶対に完成させたい」「格好良いもの作りたい」と、普段作ることに消極的な子も、クラス全員の子どもたちが、一人ひとりのオリジナルギターを完成させました。完成までの1時間、子どもたちの集中力が途切れることはなく、細部にまでこだわり、ピックやカポなどのパーツまで表現していました。
こうして、アイデアや援助の方法で、子どもたちの可能性がどんどん広がっていくのを目の当たりにした私にとって、保育者としての可能性も広がったと感じています。

カナン保育園

『わくわく・どきどき楽しさいっぱい！！』

日頃子どもと一緒に造形活動を行っているが、保育士自身がまんねりかしているというのが現状です。ハロウィンのお化けマンション作りでは水生マジックで色を付け、その上から霧吹きで水をかけることによって、色がにじんでいき子どもたちは不思議さを感じていました。マンションは最初から窓に穴を開けておき、子どもは色を塗ったり模様を描いていき、お化けを自分で切り抜いていくなどしていった。完成した物を壁画として飾ると「すごーい！お化けのお家がいっぱいやね」「これ○○ちゃんのやな」など自分で作ったという満足感を味わい、友だちと喜び合うことができました。これは個々での取り組みでは味わえないことなので素敵な取り組みだと思います。

高松南保育園

『 芸術活動には常に新しいテーマがいっぱい！！』

芸術士活動とはこれほど幅広いジャンルがあるのかと実感至極。彼岸花ロード、圧巻の人型作り、廃車のクルマ君を「とりとっと」に。どれも長期に渡っての超大作。「いいね～すごいわぁ」「いい仕事するね大好きだよ！」こどもの心になって認めて称える松尾先生マジック。材料、用具を大切に有効に使うテクニックを学び、喜んで楽しく熱心に最後までやり遂げる子ども達に笑顔が溢れます。

和光保育園

『　ワクワクがいっぱい！　』

「今日ゆみ先生来るよね！」と、金曜日が心待ちのふじ組。最初は自由に表現することに戸惑いを見せていた子も気づけば夢中になり「え〜先生もう終わり？」と、残念顔…

様々な素材や初めて触れる道具に目をキラキラさせる子ども達と共に私達もワクワクしています。

自由な発想・発見を大切に受け止めて活かしてもらうことが自信や意欲となり、どんどんアイデアの湧くとても楽しくて素敵な時間です！

若葉保育園

『　ひらめき工場長　』

芸術士活動とは、私たちのひらめきを私たちとはちがった発想で表現する活動だと思います。

ある日、折り紙でスズメを作ろうとした時、自分で作ると　どうしてもサツマイモにしか見えなかったので、芸術士さんに相談しました。

すると、鼻歌まじりに折り紙を切って、くしゃくしゃと丸めて広げて　と、まるで手品のように立体的なスズメを作ってくれました。

子どもたちも芸術士とのかかわりの中で、豊かな感性を育てていると、日々感じています。

今里保育所

『　無限に広がる想像の世界　』

毎週火曜日に芸術士さんが来てくれるようになって５年目になります。
活動のある日には、「今日、芸術士さん来る？」と、みんな楽しそうに登園してきます。
そんな子どもたちが、様々な素材や見たこともないような画材を使って作品を作っていると、想像していなかったような大作が出来上がることがあり、保育士や保護者だけでなく、子どもたち自身も驚き、感動することがあります。これからも、無限に広がる想像の世界を、子どもたちと一緒に楽しみたいと思います。

みのり保育園

『発見と感動と笑顔の場所』

「何を描いたらいいの？」と描きたい物が見つからず、描き出せなかった子の描きたい心があふれ出したのを見た時、いつもはおとなしいＡちゃんの色の魔術師のような表現力を見た時、心がどきどきします！！すごい！！と保育士が感動すると、子どもたちの楽しい・うれしいが自信になって笑顔が溢れます。「絵遊び」は子どもたちの新しい一面を見せてくれる時間。そして、子どもたちと保育者が芸術士の皆さんと一緒に感動し笑顔になれるすてきな時間です。

城東保育園

『　アイデアの宝箱　』

太田先生と毎回打ち合わせをしていると、“こんなことがしたい！”と言うと「じゃあ、こういう風にしてみる？」とすぐにアイデアを出してくれます。ウッディフェスティバルに出す作品づくりでも、木板や台を全部海のイメージで絵具で塗り、その上からにじいろの魚や貝などの紙を描いていきました。保育士だけでは思いつかない事を、時には繊細に、時にはダイナミックな作品に仕上げてくれます。こどもたちや保育士にとって、とても楽しい時間です。

れんげ保育園

『　うん！　それいいね！　』

月曜日、黒い車に乗ってやってくるお楽しみ。
「あっ！ピンちゃんきたー！」と嬉しくてみんなに知らせる。
「今日どこなん？ここ？やったー！」と大喜び。
何をするのか、ワクワク、ソワソワする子どもたち。
真剣なまなざしで、お菓子の空き箱と向き合う。
そして、思い思いに「自分の家」を作っていく。
屋根、窓、煙突、それぞれのこだわりが出てくる。
途中で子どもの手が止まった。玄関を作り忘れた様子。
少しずつ顔がくもっていく子どもに
「ここをこうしたら？どんな？」と提案するピンちゃん。
一気に子どもの顔は晴れやかになり
「うん！それいいね！」小さな塗装屋さん再稼働。

さくら伏石保育園

『　あたらしいものとの出会い　』

当保育者に来てくれるイタリア人芸術士ルカさんは、子どもたちや私たちにとって驚きを運んでくれる存在です。大きな作品をつくるアイディアだったり、季節にそった絵の描き方だったり、違った文化をもつルカさん自身だったりします。ルカさんのもつ芸術への気持ちに子どもたちも私たちも、目をまあるくして驚きたくて、いつもドキドキしています。保育所のみんなをいつも楽しませてくれるルカさん、ありがとう！　Grazie tante!

初音保育所

『パウル・クレーに夢中』

芸術士さんとのある日の一日。「パウル・クレーのきもちになって、四角や三角を使って魔法のような絵を描いてみよう」と提案され、子どもたちは夢中になって取り組みました。やってみようという意欲が育ち、体験することで満足感や充実感へと繋がりました。このように、子どもたちの個性や表現したい気持ちを実現していくための教材や導入の仕方について新しい発見もあり、毎回芸術士の先生からは、多くのことを学ばせていただきました。

サンシャインこどもの森

『わくわくした時間』

「今日は何して遊ぶ？」「ひとみちゃん来たね」と目を輝かせながら瞳先生との時間を心待ちにする子ども達。

作ること、描くことを楽しんだり、面白さや不思議さに感動したり、子ども達は芸術活動の時間に心をわくわくさせています。このわくわく感が、これから成長していく子ども達のエネルギーとなり、のびのびと自分らしく表現することを楽しんでほしいと願っています。

前田幼稚園

『　アイデアの四次元ポケット　』

「子どもたちにこんなことを経験させたいんやけど…」と思いを伝えると、「こんな素材を使ってみる？」といろいろなアイデアが出てくる芸術士さん。

芸術士さんが材料をカラフルに並べていると、子どもたちも「今日何するんかな？」と作る前から目をキラキラ輝かせ、作ること、描くことが楽しみな様子。

作ること描くことを存分に楽しめるよう、いろいろなポケットをもっている芸術士さんの存在は、子どもたちにとっても教師にとっても、いい刺激になっています。

林幼稚園

『イメージを形にすること』
紫陽花の色塗り、粘土で野菜づくり、手型で空の模様描き、などなど・・・
色々な素材に触れながら、イメージが形になって行く楽しさや喜びを、
味わうことができました！
<ばら組担任>

『新たな発見！！』
いろいろな素材・描画の方法を教えてもらいました。
これまで気付かなかった新しい方法との出会い・・・
固定概念を覆してくれました！
<ひまわり組担任>

『イマジネーションが爆発する時間！』
「こんな描き方があるよ」「考えてごらん」「新しい材料だよ」
・・・脳細胞をピンピン刺激される時間。
一人一人がアーティストになりました。
<すみれ組担任>

一宮幼稚園

『芸術に正解はない』

幼稚園の教職員ではないが、長期的に園での教育活動にかかわっていることから、幼児・教員にとって教育効果は大きい。また保護者にとっても質の高い教育でありそのようなことから、専門家による教育支援活動を今後も積極的に推進いていただきたい。

子どもや教師は、これまで触れたり、製作に取り入れたりしたことのない素材との出会いがあり、製作活動に対する興味関心意欲は向上しました。幼児一人ひとりのアイディアを、吸い上げたり、実現したりする芸術士さんとの取り組みから、子どもバザーでのお店屋さん、音道パフォーマンスという新しい表現の仕方やおもしろさを味わうことが出来ました。

平川先生の大切にされていた言葉に「芸術に正解はない」という名言が子どもたちの心の中で大切にされています。挑戦する勇気、実現する達成感、そして世界に一つしかない個性にスポットを当てていただきました。

多肥幼稚園

毎回、ねらいやテーマにそって自由に表現できるうれしさや楽しさに満ち溢れた場となっています。様々な教材を活用することで、子どもたちの自由な発想を生み出し、そのできた作品をほめてもらえた喜びは、自尊感情を高め、大きな自信につながっています。

運動会ではクレパス・絵具・染料で染めたTシャツを着て表現を楽しみました。夢中になり、真剣に取り組む子どもたちの視線に合わせて作品をみると、楽しい気持ちが伝わってきます。

川岡幼稚園

『色とりどりの可能性を引き出す活動』

谷先生との秋の森作り。葉脈の一つ一つの隙間にスライムを描いたり、一つずつ違う色を塗ったりと真剣な表情の子どもたち。そして出来上がった作品は、赤や青の原色が互いに主張し合いながらも不思議な調和を醸し出している。きっと人間も同じ。それぞれが自分を発揮しつつ、響きあって調和していくことが幸せなのだ。色の可能性、そして子どもの可能性を引き出していく・・それが芸術なのだと思った一コマだった。

弦打幼稚園

『あたらしいもののみかた』

種を土粘土に飾ってみる。葉っぱを叩いて布を染める。いつも見たり使ったりしているものを別の見方、別の使方をしてみる。おもしろいと感じるのはあたらしいもののみかたができるようになってきたからかな？

鬼無幼稚園

『みんなの心を紡ぐ手織りの活動』

個性あふれる子どもたちが、「伸び伸びと自分を表現」し、「遊びきった喜び」で満ち溢れた表情を見せる時、みんなの心の中には、縦糸・横糸の手触り感のよい白い布がしっかりと織りあがる。やがて時の流れとともに、一人一人の心の中で、夢膨らむ色へと自然に変化し、素敵に輝きを増していく。
そして、かかわる周囲の人の心も、いつしか豊かに織りなされ、手織りの心地よさとともに、さらに味わいを持つ色が織り込まれる。

檀浦幼稚園

『おどろきいっぱい わぁーたのしい！』

大きな布に色塗りしてできた巨大ソラマの皮！
なが～い模造紙に指でペたぺた、
幼稚園から見える風景…。
ビニール絵の具を使って大きなビニールに模様を描いてできた
いろいろな材料を使って いろいろな方法で いろいろなものを
でかでかバルーン!!
作って遊んだよ！ どれもこれもびっくり驚きがいっぱいあって とっても楽しかったね。

田井幼稚園

『子どもが楽しく自由にのびのびと活動できる時間』

<年少児>「たかまつさんとあそんでくるね！」が子どもたちの口ぐせです。
繰り返し同じ材料を使って活動でき、満足いくまで楽しんでいます。

<年中児>ゆったりとした態度で接してくださるので、自分とどう表現すればいいのか見つけ出せるようになってきました。

<年長児>絵を描くのがあまり好きではなかったAくんが、芸術士さんの「いいねえ」のことばで、その日何枚も空色の絵を描いていました。

大町幼稚園

『子どもたちのイメージを叶えるドラえもんのポケット』

芸術士の先生は、子どもたちの興味や関心を探りながら“今日は何をしようかな～？”と、いつも楽しみに幼稚園にやって来ます。担任だけでは、表現方法がありきたりになりそうなときも、芸術士の先生の「こんな素材もおもしろいですよ」の一言で、一気にイメージが広がり、まるでドラえもんのポケットのようです♪

子どもたちはもちろんのこと、教師にとっても新しい表現方法、教材の発見となっています。“次は何をしますか～！？”と話し合う時間もワクワクします！

川東幼稚園

「心と体がつながる　異文化交流」

マークス先生の気持ちを心で感じ取ろうとよく見て、真似て、一緒に動いて、触れ合って表現活動がどんどん楽しくなってきました。すると、心と体が開放されイマジネーションが溢れ出てきます。友だちとふれ合う動きでは、相手の気持ちが伝わってくる不思議さ、おもしろさを感じています。

国分寺北部幼稚園

平成２８年度高松市芸術士派遣事業活動報告

きょうなにするん

参加芸術士

村井 知之（パフォーマンス）
谷　由貴（染織・美術）
樫本 美千子（日本画）
太田 絵美子（彫刻）
松尾 由美（洋画）
松野 礼子（絵画）
カタタ チサト（身体表現）
平川 めぐみ（ファッションデザイン）
すぎやま あゆみ（洋画）
Frida（ピアノ・うた）
ルカ・ローマ（彫刻）
長野 由美（造形・インスタレーション）
三木 優希（コンテンポラリーダンス）
佐々木 あずさ（ハンドメイド）
岩佐 百合子（木工芸・デザイン）
高松 明日香（絵画）
モーリエール 瞳（造形・平面）
山田　茂（絵画・平面）
松家　若奈（絵画・デザイン）
マークス・ボムスキー（ダンス・振付）
松尾 奏子（彫刻）
松岡 美江（デザイン・インスタレーション）

参加施設

瀬戸内保育所
扇町保育所
宮脇保育所
福岡保育所
鶴尾保育所
古高松保育所
屋島保育所
林保育所
浅野保育所
牟礼保育所
田井保育所
高松保育園
敬愛保育園
西春日保育所
こぶし中央保育園
西光寺保育所
川添保育園
カナン保育園
高松南保育園
和光保育園
若葉保育園
今里保育所
みのり保育園
城東保育園
れんげ保育園
さくら伏石保育園
初音保育所
サンシャインこどもの森
前田幼稚園
林幼稚園
一宮幼稚園
多肥幼稚園
川岡幼稚園
弦打幼稚園
鬼無幼稚園
檀浦幼稚園
田井幼稚園
大町幼稚園
川東幼稚園
国分寺北部幼稚園

発行日　平成 28 年 12 月 23 日
発行所　高松市健康福祉局こども未来部こども園運営課
〒760-8571 香川県高松市番町1丁目 8-15
TEL　087-839-2358
FAX　087-839-2360
NPO 法人アーキペラゴ
〒760-0051 香川県高松市南新町 4 番地 9-2F
TEL　087-813-1001
FAX　087-813-1002
http://geijyutsushi.archipelago.or.jp/
制作　芸術士
編集　太田絵美子、岩佐百合子、佐々木あずさ、
松家若奈、松岡美江、モーリエール瞳
本書記載の写真・文章等の無断使用を禁じます。